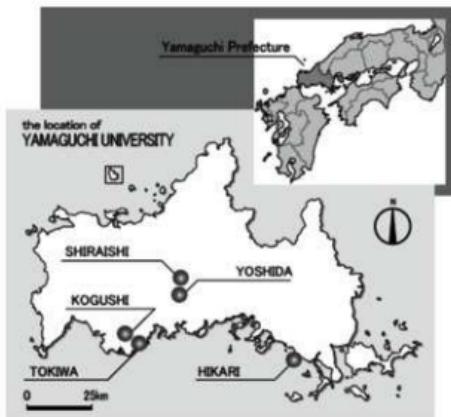


山口大学構内遺跡調査研究年報XX

2017

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学構内遺跡調査研究年報XX



2017

山口大学埋蔵文化財資料館

序 文

この年報には、山口大学埋蔵文化財資料館が実施した平成12年度の発掘調査成果を収録しています。当館では、平成15年度以降の発掘調査成果については『山口大学埋蔵文化財資料館年報』として刊行していますが、現在、未報告となっている平成7・10～11・14年度分の発掘調査報告については、今後引き続き整理作業を進め、『山口大学構内遺跡調査研究年報』として刊行する予定です。

本書の刊行にあたって、平成12年当時の埋蔵文化財資料館運営委員会、施設部をはじめとする関係部局、関係機関・関係各位のご高配に深く御礼申し上げるとともに、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山口大学埋蔵文化財資料館
館長 根ヶ山 徹

例　　言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館が、埋蔵文化財資料館運営委員会の指示を受けて、平成 12 年度に山口大学構内で実施した調査の報告書である。
2. 現地における調査・研究は、資料館員 村田裕一（～平成 15 年 3 月 31 日）・田畠直彦・金子大輔（平成 10 年 4 月 1 日～平成 13 年 3 月 30 日）が担当した。
また、出土遺物の整理と報告書の作成は平成 12～14 年度及び平成 27～28 年度に行い、同館員 中村仁美（平成 11 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 30 日）・神田真理子（平成 13 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・菊本裕美（平成 14 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・山田圭子（平成 27 年 4 月 1 日～）・乃美友香（平成 19 年 4 月 1 日～）が携わった。整理と報告書作成の統括は当初、村田・田畠で行っていたが、村田の転出により、田畠が行った。
3. 本調査・研究における事務一般は、平成 12 年度は事務局研究協力第三係が統括し、実施面においては、各関係部局の事務部があたった。
4. 現地における遺構の実測などは、村田・田畠・金子が行った。
5. 遺物実測・製図は、田畠・菊本・山田が行った。
6. 本文の執筆分担は目次に記した。
7. 現地の写真撮影は、村田・田畠が行った。遺物写真は田畠が撮影した。
8. 墨書き器について、山口大学人文学部教授 橋本義則氏、蛸壺については、山口大学経済学部教授 木部和昭氏、磁器については、財団法人北九州市芸術文化振興財団 佐藤浩司氏、石器の石質鑑定については、山口大学大学院理工学研究科名誉教授 加納隆氏に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。
9. 英文の校正については、静岡県文化局 マーク J. ハドソン教授にご協力いただいた。
10. 本書の編集は館員の補佐を得て田畠が行った。
11. 調査担当は次のとおりである。

平成 12 年度

調査主体	埋蔵文化財資料館	館長	加納	隆
		館員	村田	裕一
		同	田畠	直彦

		同	金子 大輔
		同	中村 仁美
事務局	事務局長	鎌田 賢	(総務部長事務取扱)
			平成12年12月31日～
			平成13年1月6日)
事務局総務部	部 長	金田 忠一	(～平成12年12月31日)
			野中 修(平成13年1月6日～)
研究協力課	課 長	山田三千夫	
研究協力第三係	係 長	宍戸 好隆	
平成28年度			
調査主体	埋蔵文化財資料館	館 長	根ヶ山 徹
		副館長	藤間 充
		館 員	田畑 直彦
		同	横山 成己
		同	川島 尚宗
		同	山田 圭子
		同	乃美 友香
事務局	情報環境部	部 長	山根 信二
	学術情報課	課 長	叶井貫一郎
	総務係	係 長	水津 峰夫(～平成28年6月30日)
			藤本 勇二(平成28年7月1日～)
			島津 有希
			糸瀬 朋美

12. 調査研究にあたって下記の方々の多大なご協力と援助を受けた。

平成12年度

事務局総務部	人事課長 鈴木成巳、同課長補佐 福富 隆、同専門職員 柳井 進
	任用係長 井下健二、同係 三浦勝弘、西本志保、中井智明、内藤正幸(平成13年3月8日～)
経理部	部長 北野英憲、主計課長 渡邊悟司、同課長補佐 牧原和仁、経理

課長 芝 稔、同課長補佐 川本敏男、総務係長 山本直行、予算
係長 秦 保博、監査係長 三村文雄、管財係長 岡崎幸治、管理
係長 重本隆之、同係 末武光裕

施設部 部長 山下 曙（～平成 12 年 12 月 31 日）、太田壽彦（平成 13 年 1
月 1 日～）、企画課長 上田 孝雄、同専門員 藏田兼義、建築課長
齋田安之、同課長補佐 窪田秀正、設備課長 才木敏雄、総務係長
高崎明祈、企画係長 梅本健志、建築第一係長 中谷幸一、同係 小
野又健治、建築第二係長 石井一生、同係 澤谷弘美、電気係長 松
田清司、同係 弘中智則、前田康孝、機械係長 岡田吉彦、同係 板
垣健一、藤林聖司、中村兵衛

学務部 部長 柴田 賢次、学生生活課長 副島政弘、同専門員 河村憲生、
総務係長 青木輝雄

教育学部 事務長 有吉 明、会計係長 佐村研治、附属山口中学校長
増田 勉、同副校長 原田信夫、山口附属学校係長 鴨崎義春、附属
光小学校長 河合洋祐、同副校長 佐藤純一、附属光中学校長 増田
勉、同副校長 原田信夫、光附属学校係長 伊東伸司

工学部 事務長 石崎啓介、事務長補佐 常宗克行、管理係長 須川 恵
吉田構内の発掘調査作業員
岡野美智恵、金子芳子、杉山久枝、鈴木久子、中村節、津野田志津子、原千寿恵、
石津京子、岡イツ子、栗林さつき、長田幸子、篠原澄江、河村伸子、山崎シズエ、
山本京子、山下貞子

凡 例

- 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA-24区南西隅を起点（構内座標x=0, y=0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第III系における座標値(X, Y)と構内座標値(x, y)とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

- 各遺構は下記の記号で表記することがある。

土壤……SK、溝……SD、柱穴……Pit、落ち込み……SX

- 本書で使用した方位は白石構内と付篇が磁北、他は真北を示す。また、方位の表記がない図は上が真北を示す。

- 標高数値は海拔標高を示す。

- 本文中の遺物番号は、挿図・図版・出土遺物観察表の番号と一致させた。

- 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に準拠した。

- 土器・陶磁器の実測図は、下記のように器種分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶磁器

断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器

本 文 目 次

第1章 平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要 … (田畠)	1
第2章 吉田構内総合研究棟新營に伴う発掘調査 … (田畠)	5
第1節 試掘調査	
1 調査の経過	5
2 基本層序	5
3 遺構・遺物	7
4 小結	7
第2節 事前調査	
1 調査の経過	9
2 基本層序	9
3 遺構	17
4 遺物	20
5 小結	28
第3節 立会調査	32
第3章 平成12年度山口大学構内の試掘調査 … (田畠)	33
第1節 常盤構内の試掘調査	
1 福利厚生棟新營に伴う試掘調査 … (田畠)	33
第4章 平成12年度山口大学構内の立会調査 … (田畠)	35
第1節 吉田構内の立会調査	
1 駐舎及び周辺施設改修工事に伴う立会調査	35
2 架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査	35
3 九田川河川局改修工事に伴う立会調査	38
4 山口合同ガスガバナー室新設及びガス管改修工事に伴う立会調査	39
5 パリカー新設工事に伴う立会調査	40
6 あづまや新設工事に伴う立会調査	40

7	共通教育センター空調設備新設工事に伴う立会調査	41
8	基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査	42
第2節 白石構内の立会調査		
1	教育学部附属山口中学校防球ネット新設工事に伴う立会調査	43
第3節 光構内の立会調査		
1	教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査	44
2	教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修2期工事に 伴う立会調査	46
付 篇		
吉田遺跡第I地区B区の未報告図面について (田畑)		48
山口大学構内遺跡調査要項		
山口大学埋蔵文化財資料館規則		53
山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則		54
山口大学構内の主な調査		56
Summary		71

図 版 目 次

<総合研究棟新営に伴う発掘調査>

- PL. 1 吉田構内全景（西から）
- PL. 2 (1) 調査前全景（東部 北から）
 (2) 調査前全景（西部 北から）
- PL. 3 (1) A トレンチ全景（南から）
 (2) C トレンチ東部北壁土層断面（南西から）
- PL. 4 (1) A トレンチ a - b 間土層断面（南西から）
 (2) A トレンチ c - d 間土層断面（南西から）
 (3) B トレンチ e - f 間土層断面（南から）
 (4) C トレンチ g - h 間土層断面（南東から）
- PL. 5 事前調査区全景（北西から）

- PL. 6 事前調査区全景（俯瞰）
- PL. 7 (1) 調査区北西部A－B間土層断面（北東から）
(2) 調査区北部C－D間土層断面（南から）
(3) 調査区北東部E－F間土層断面（西から）
(4) 調査区南東部F－G間土層断面（北西から）
- PL. 8 (1) 調査区南東部G－H間土層断面（西から）
(2) 調査区南東部I－J間土層断面（南西から）
(3) 調査区北西部遺構検出状況①（南西から）
(4) 調査区北西部遺構検出状況②（西から）
- PL. 9 (1) 調査区北東部遺構検出状況（南西から）
(2) 埋没谷K－L間土層断面（北西から）
(3) 埋没谷M－N間土層断面（南東から）
(4) 埋没谷O－P間土層断面（南東から）
- PL. 10 (1) 埋没谷円面鏡出土状況（南から）
(2) 埋没谷弥生土器出土状況（北東から）
(3) 第1号土壤・2号土壤・杭列半截状況（南西から）
(4) 第3号土壤半截状況（北東から）
- PL. 11 (1) 第4～6号土壤半截状況（南西から）
(2) 第7号土壤半截状況（南西から）
(3) 第8号土壤半截状況（南西から）
(4) 第9号土壤半截状況（南西から）
- PL. 12 出土遺物（土器）①
- PL. 13 出土遺物（土器）②
- PL. 14 出土遺物（土器）③
- PL. 15 出土遺物（土器）④
- PL. 16 出土遺物（土器）⑤
- PL. 17 出土遺物（土器）⑥
- PL. 18 (1) 出土遺物（土器）⑦
(2) 出土遺物（石器）

<常盤福利厚生棟新營に伴う試掘調査>

- PL. 19 常盤構内全景（西から）
PL. 20 (1) A トレンチ完掘状況（北西から）
(2) B トレンチ完掘状況（南西から）
(3) C トレンチ完掘状況（北から）
(4) D トレンチ完掘状況（北西から）

<立会調査出土遺物>

- PL. 21 (1) 架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査出土遺物
(2) 附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査出土遺物
(3) 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修2期工事に伴う立会調査出土遺物

<付篇 吉田遺跡第I地区B区の未報告図面について>

- PL. 22 (1) 第I地区B区全景①（南西から）
(2) 第I地区B区全景②（南西から）
(3) 第I地区B区土層断面（南から）
(4) 第I地区B区調査風景（東から）

挿 図 目 次

<平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要>

Fig. 1 山口大学吉田・白石構内位置図 2

Fig. 2 山口大学小串・常盤構内位置図 3

Fig. 3 山口大学光構内位置図 4

<吉田構内総合研究棟新營に伴う発掘調査>

Fig. 4 調査区位置図 5

Fig. 5 調査区設定位置図 6

Fig. 6 調査区断面図 8

Fig. 7 調査区位置図 9

Fig. 8 調査区平面図 11・12

Fig. 9 調査区断面図① 13

Fig. 10	調査区断面図②	14
Fig. 11	調査区断面図③	15
Fig. 12	調査区断面図④	16
Fig. 13	遺構平面図・断面図①	18
Fig. 14	遺構平面図・断面図②	19
Fig. 15	出土遺物実測図①	21
Fig. 16	出土遺物実測図②	22
Fig. 17	出土遺物実測図③	24
Fig. 18	出土遺物実測図④	25
Fig. 19	出土遺物実測図⑤	26
Fig. 20	出土遺物実測図⑥	27
Fig. 21	調査区位置図	32
<常盤構内福利厚生棟新嘗に伴う試掘調査>		
Fig. 22	調査区位置図	33
Fig. 23	調査区設定位置図	34
<吉田構内の立会調査>		
Fig. 24	調査区位置図	35
Fig. 25	調査区位置図	36
Fig. 26	出土遺物実測図	37
Fig. 27	調査区位置図	38
Fig. 28	調査区位置図	39
Fig. 29	調査区位置図	40
Fig. 30	調査区位置図	40
Fig. 31	調査区位置図	41
Fig. 32	調査区位置図	42
<白石構内の立会調査>		
Fig. 33	調査区位置図	43
<光構内の立会調査>		
Fig. 34	調査区位置図	44
Fig. 35	出土遺物実測図	45

Fig. 36	調査区位置図	46
Fig. 37	出土遺物実測図	47
<付篇 吉田遺跡第I地区B区の未報告図面について>		
Fig. 38	第I地区B区位置図	48
Fig. 39	第I地区B区詳細位置図	49
Fig. 40	第I地区B区平面図・断面図	51
<山口大学構内の調査区位置図>		
Fig. 41	吉田構内地区割及び主な調査区位置図 (昭和41年度～平成14年度)	73・74
Fig. 42	小串構内調査区位置図(昭和58年度～平成14年度)	75
Fig. 43	常盤構内調査区位置図(昭和58年度～平成14年度)	76
Fig. 44	白石構内(幼稚園・小学校)調査区位置図 (昭和58年度～平成14年度)	77
Fig. 45	白石構内(中学校)調査区位置図(昭和60年度～平成14年度)	78
Fig. 46	光構内調査区位置図(昭和58年度～平成12年度)	79

表 目 次

<平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要>

Tab. 1	平成12年度山口大学構内遺跡調査一覧表	1
--------	---------------------	---

<吉田構内総合研究棟新嘗に伴う発掘調査>

Tab. 2	出土遺物(土器)観察表	29
--------	-------------	----

Tab. 3	出土遺物(石器)観察表	31
--------	-------------	----

Tab. 4	山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員	55
--------	---------------------	----

Tab. 5	山口大学構内の主な調査一覧表	56
--------	----------------	----

第1章 平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋蔵している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成12年度は事前調査1件、試掘調査2件、立会調査12件の計15件の調査を実施した。

Tab.1 平成12年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地図	構内地区区割	面積(m ²)	調査期間	調査担当	総面積
事前	総合研究棟新宮	吉田	Q・R-18	897	5月23日～7月31日	田舎	Fig.41 No.225
試掘	総合研究棟新宮	吉田	Q-18, R-17～19	270	4月17日～5月19日	田舎	Fig.41 No.224
	福利厚生棟新宮	常盤		38.5	2月26日～3月8日	村田	Fig.43 No.19
	廻合及び周辺施設改修	吉田	M-8	3.6	4月24日	村田	Fig.41 No.226
	架空電線取り外し埋設	吉田	O-15, P-15・16, Q-14・15・18・19 R-13・14, R-S-19 S-14	268	5月8・22・23・25・ 26・30日, 6月1・2・ 5・7・8・14・15日	村田	Fig.41 No.227
立会	九田川河川局部改修	吉田	H-11・12, I-10・11, J-9・10, K-L-9	616	5月11・8月3・ 4・16・23・25・ 9月4・18・10月 23・11月30・12 月12・1月12・2 月5・3月27日	村田 田舎	Fig.41 No.228
	山口合同ガスガバナー室新設及び ガス管改修	吉田	O-19～22, P-38・19・22	313	8月2・3・22・23・ 28・29日	村田	Fig.41 No.229
	総合研究棟新宮(仮設電柱設置)	吉田	R-19, S-20	1	8月17日	田舎	Fig.41 No.225
会	パリカー新設	吉田	N-22, V-17	0.4	12月22日	村田	Fig.41 No.230
	あずまや新設	吉田	L-18	5	3月2・5日	村田 田舎	Fig.41 No.231
	共通教育センター空調設備新設	吉田	J-16	3.4	3月13日	村田	Fig.41 No.232
	基礎環境整備(外灯新設)	吉田	J-K-21, M-10	2	3月27・28日	村田	Fig.41 No.233
	教育学部附属山口中学校防塵ネット新設	白石		4.4	12月6日	村田	Fig.45 No.18
	教育学部附属光小・中学校護岸石積改修	光		173	7月4日	村田	Fig.46 No.20
	教育学部附属光小・中学校上水道(給水 管)改修2期	光		23	8月10日	田舎	Fig.46 No.21

吉田構内の調査 (本部・人文・教育・経済・理・農の各学部: 山口市大字吉田 1677-1、教育学部附属附属学校:

閩商田 3003 所在)

事前調査1件、試掘調査1件、立会調査9件を実施した。

総合研究棟新館に伴い、試掘調査を経て事前調査を実施した。調査の結果、調査区は埋没谷の中に位置することが判明した。弥生時代以降の遺構面形成層も縄文～弥生時代の谷の堆積土と考えられる。調査区では縄文～弥生時代谷埋土1から縄文土器（後～晚期の深



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図

鉢)、弥生土器(中期末～後期初頭の壺・甕)、石鎌、石斧が出土した。また、谷埋土2からは古代の土師器、須恵器、谷埋土1からは古代の土師器、須恵器、中世の瓦質土器が出土した。谷は弥生時代中期末～後期初頭以降に堆積が進行し、古代を経て中世(15～16世紀)には堆積が完了したとみられる。確実な遺構は近世以降の棚田に伴うもので、土壤の多くは自然の落ち込みであった可能性がある。

古代の遺物のうち、須恵器には円面硯や墨書き持つものなど、官衙の存在を推測させる遺物も含まれていた。なお、立会調査でもA・B地点で谷埋土を確認した。

上記調査区を含めた現動物医療センター周辺は近年の調査で官衙を想起させる遺構・遺物の検出が相次いでおり、詳細は『山口大学埋蔵文化財資料館年報』を参照されたい。

架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査では、家畜病院西側において現地表下 50 cm 前後で遺物包含層を検出し、土



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

師器、須恵器片が少量出土した。遺物包含層は、ほぼ上面検出にとどまったため、詳細は不明であるが、総合研究棟敷地・解剖実習棟敷地・農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期第2調査区で検出した谷の延長部分と考えられる。

基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査では、B地点で包含層を検出し、出土層位不明であるが、土師器片が出土した。B地点の北側に位置する東アジア研究科・経済学研究科棟敷地では、自然河川、自然流路、溝が検出されていることから、B地点の包含層はこれらのいずれかの延長部分である可能性が高い。

その他の立会調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

白石構内の調査（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

立会調査1件を実施した。教育学部附属山口中学校防球ネット新設工事に伴う立会調査は、調査範囲が狭小であったことから、断面の確認は困難であった。また、埋土に遺物は含まれていなかった。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市南小串1丁目1-1）

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎：同上野中所在）

試掘調査1件を実施した。福利厚生棟新営に伴う試掘調査では、削平が著しく、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。



Fig.3 山口大学光構内位置図

水管改修 2 期工事に伴う立会調査では、A-1 地点(学生研修宿泊棟から南西約 1.7 m)の現地表下 103 ~ 165 cm で近世～近代の灰白色粗砂を検出し、同層から土師器片、須恵器片、越州窯青磁碗片、石錘が出土した。

光構内の調査 (教育学部附属光小学校、同光)

中学校：光市大字室積浦 1-1 所在)

立会調査 2 件を実施した。教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査で B・C 地点の一部で既設の石垣の内側に円礫を使用した石積が確認された。この石垣の詳細な時期は不明であるが、石垣の裏込土等からは近世～近代の磁器、婧壺、瓦片が出土した。婧壺には墨書が認められ、大部分は判読できなかったが、底面に「宮」が書かれていた。

教育学部附属光小・中学校上水道（給

第2章 吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査

第1節 試掘調査

1 調査の経過

平成11年度補正予算で平成12年度の総合研究棟新営工事が計画され、平成12年2月3日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会にて、その取り扱いが協議された。この段階では工事予定地が決定していなかったが、いずれの候補地においても地下の状況が不明で試掘調査が必要と判断されることから、十分な調査期間を確保することを前提とした上で、新営予定地等決定後、再度審議することとなった。予定地の決定に伴い、同年3月3日開催の運営委員会で審議を行った結果、試掘調査を実施することになった。

新営予定地はRI実験研究施設の南側に位置する。敷地内東縁部においては、昭和60年度に農学部附属農場飼料園排水溝修復整備に伴う立会調査¹⁾が実施され、南端部で古墳時代・中世の遺物包含層、河川跡が検出されたが、この河川は近年の調査から埋没谷であることが明らかとなっている。今回の調査でもその延長部分が検出されることが予想された。以上を踏まえて、試掘調査は平成12年4月17日～5月19日にA～Dトレーニングを設定して実施した。調査面積はAトレーニングが91.6m²、Bトレーニングが68.7m²、Cトレーニングが74.7m²、Dトレーニングが24.0m²、Eトレーニングが11m²、合計270m²である。

なお、調査区西部では造成土が厚く脆弱であったことから調査時の降雨による壁面の崩落が相次いだ。このため、顕著な遺構・遺物が見られなかったBトレーニング西部、D・Eトレーニングは直ちに埋め戻した。

2 基本層序 (Fig. 6, PL. 3・4)

煩雑を避けるため、次節の事前調査の成果を加味した基本層序を記載する。基本層序は、第I層：表土、第II層：造成土、第III層：水田耕土、第IV層：水田床土、第V層：谷埋土1、第VI層：谷埋土2、第VII層：縄文～弥



Fig.4 調査区位置図

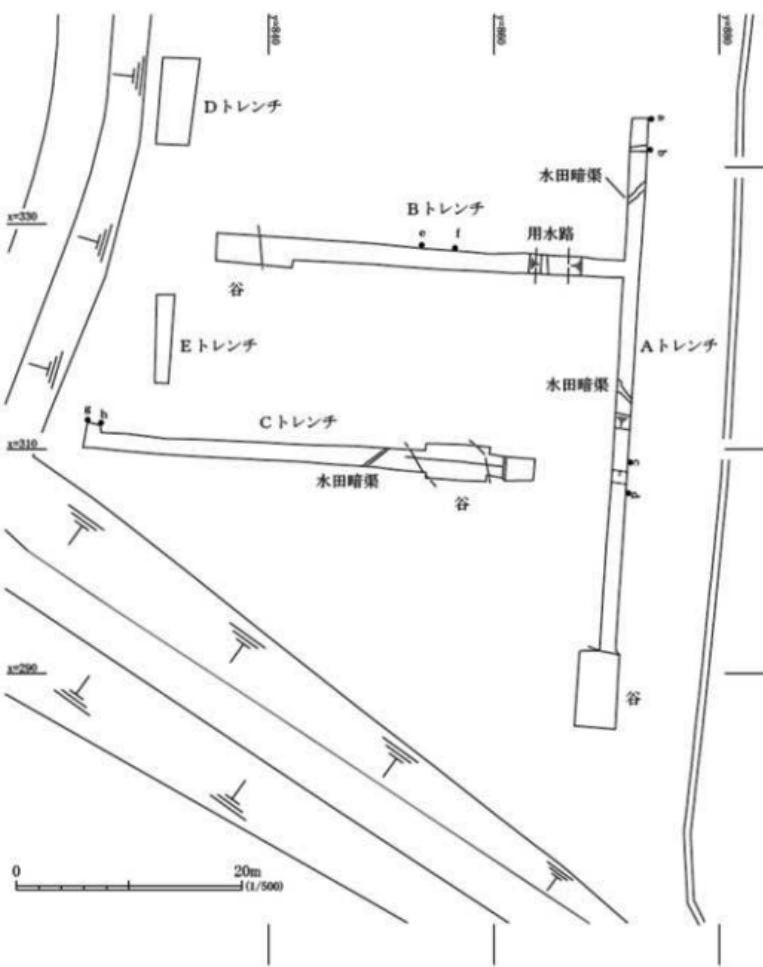


Fig.5 調査区設定位置図

生時代谷埋土1、第VII層：縄文～弥生時代谷埋土2である。

新當予定地は調査直前まで牧草地として利用されていた。A調査区北部（a-b断面）では、第I層の層厚が約15cmでその直下、標高24.9mで第III層が認められた。Bトレンチでは用水路以西が低く、同e-f断面では標高約24.2mで第III層が検出されたことから、統合移転時に標高の低い西側を埋めて牧草地としたことが判明した。

第V層以下は谷の埋土である。第V層は中世の遺物を含む。Bトレンチ東部、Aトレンチc-d断面では削平されており、直上に第IV層が認められた。Aトレンチc-d断面ではV・VII層が北側へ立ち上がっていたが、棚田造成時の削平のため、本来の肩部は確認できなかつた。第VI層は調査当時河川跡ととらえた古代の谷埋土である。この段階の谷筋はAトレンチ南部、Cトレンチ東部、Bトレンチ西部で認められ、南東から北西方向に延びていた。

試掘調査では第VII層から遺物は出土していない。第VII層は地山（弥生時代以降の遺構面形成層）である。Aトレンチ北部（a-b断面）ではシルト質の層序が連続していた。一方、他の箇所においては粗砂層やシルト・粗砂・礫の互層が認められ、弥生時代以前の谷の堆積土である可能性があるため、縄文～弥生時代谷埋土2とした。

3 遺構・遺物 (Fig. 5, PL. 3)

Aトレンチで水田暗渠2条、Bトレンチで用水路1条、Cトレンチで水田暗渠1条を検出したのみである。近世に棚田が造成された段階で遺構が削平を受けた可能性が高い。

Aトレンチ南部・Cトレンチ東部の谷埋土1からは古代の土師器、須恵器、中世の瓦質土器、谷埋土2からは古代の土師器、須恵器が出土した。また、壁面崩落土から近世～近代の陶磁器が少量出土した。Aトレンチ南部からCトレンチ東部は事前調査で再掘削しており、谷埋土2出土土器には接合するものがあることから、次節でまとめて報告する。

4 小結

今回の調査では、顕著な遺構は検出されなかつたが、埋没谷を検出した。また、谷筋はAトレンチ南部、Cトレンチ東部、Bトレンチ西部で認められ、南東から北西方向に延びていることが判明したほか、谷埋土1・2には古代の土師器、須恵器が多く含まれていたことから、予定地内に古代を中心とする遺構・遺物の存在が確実視された。以上の調査結果について、平成12年5月17日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会で審議した結果、事前調査を実施することになった。

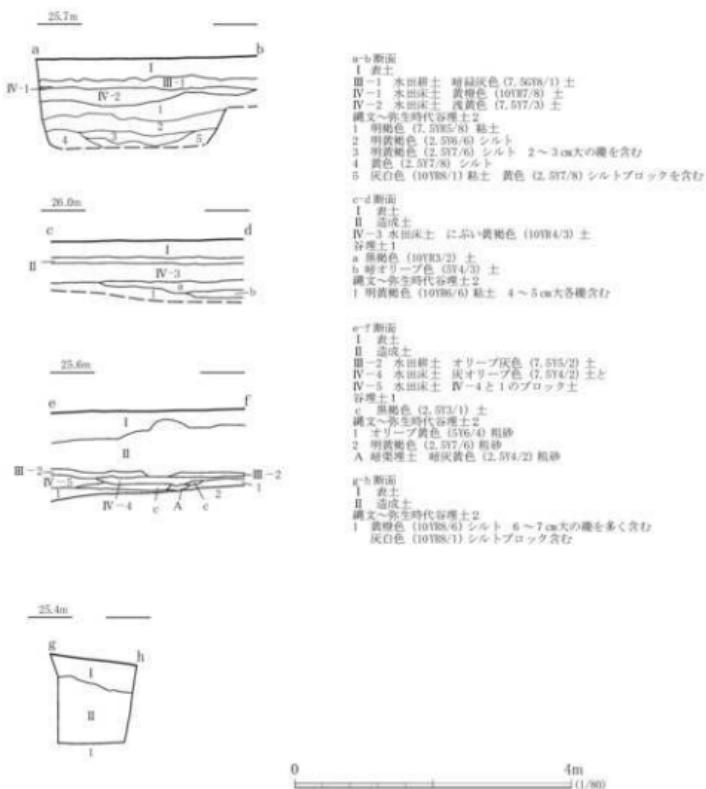


Fig.6 調査区断面図

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属農場排水溝修復整備に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報V』、1986年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「平成7・10~14年度山口大学構内遺跡調査の概要」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）

第2節 事前調査

1 調査の経過

試掘調査の結果を受けた埋蔵文化財資料館運営委員会の審議の結果、試掘調査に引き続き事前調査を実施することになった。調査区の設定にあたっては、試掘調査の結果を踏まえて新營建物予定地内に延びる谷筋とその周辺を対象とし、試掘調査Aトレンチから新營建物予定地の間は古代の谷埋土上面まで検出し、記録作業を行った。調査期間は平成12年5月23日～7月31日、調査面積は807m²である。調査区内はI～IV区に区分し、安全確保のため、出入口2箇所を除き2段掘りとした。また、調査の概要については平成12年8月1日に記者発表を行った。

2 基本層序 (Fig. 9～12, PL. 7～9)

基本層序は、第I層：表土、第II層：造成土、第III層：水田耕土、第IV層：水田床土、第V層：谷埋土1、第VI層：谷埋土2、第VII層：縄文～弥生時代谷埋土1、第VIII層：縄文～弥生時代谷埋土2である。旧地形は南東から北西方向に傾斜していた。

第V層以下は谷埋土であるが、肩部は検出していない。第V層：谷埋土1は古代・中世の遺物を含む。土器は細片が多いが、時期が判断できる土器のほとんどが古代の土器であり、中世の瓦質土器がわずかに含まれていた。調査時は中世の耕土もしくは床土で、近世に下る可能性も考えたが、確実な近世以後の遺物を含まないこと、直下において畦や溝などの関連遺構はなく、地形に沿って堆積しているため、最終段階の谷埋土と位置づけた。第V層はシルト質主体でI区東壁（I-J断面）では標高25.55mで検出し、3層で層厚42cm、II区北東壁（E-F断面）南部では標高25.2mで検出し、単層で層厚50cmであった。しかし、III区北東壁（E-F断面）では水田暗渠4から西側に第V層がなく層厚45～70cmの第II層、その直下で第III層が認められた。IV区南西壁（A-B断面）



Fig.7 調査区位置図

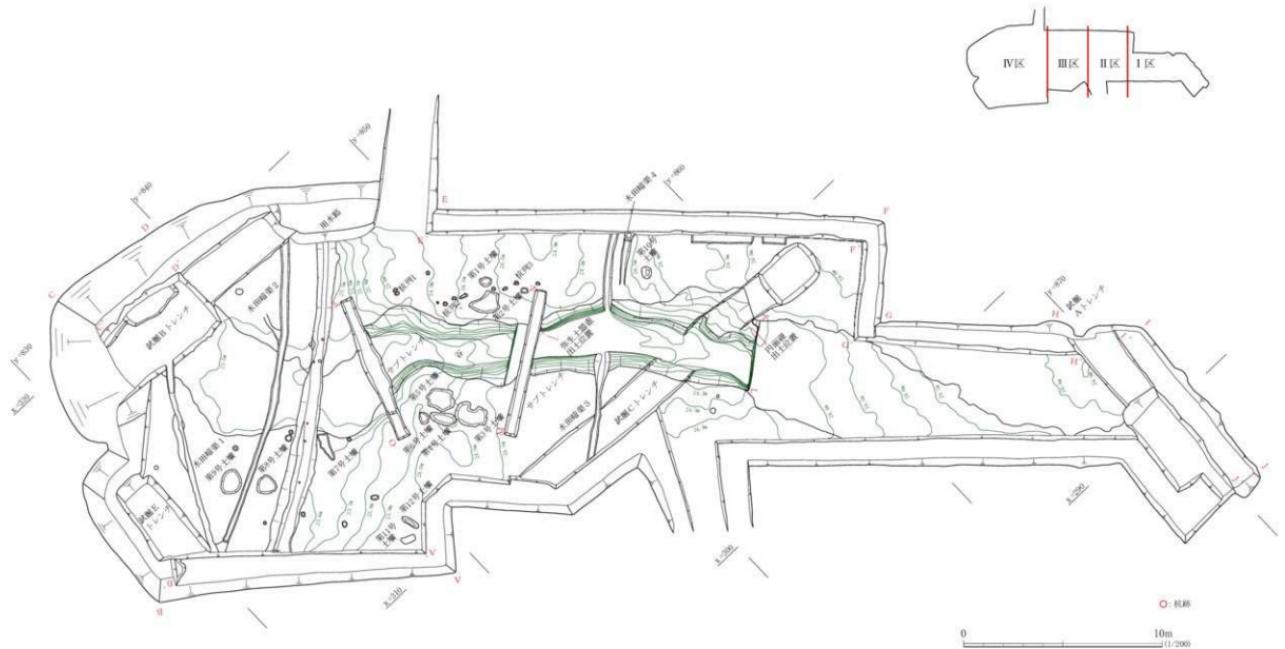
でも用水路から北側は削平されており、IV区北壁（C-D断面）では層厚50cmの第II層の直下で第III層が認められた。以上から、試掘調査で確認したように、旧地形が棚田造成時に削平され、統合移転時に埋め立てられたことがわかる。V層に含まれる遺物はI・II区に集中しており、北西側ほど少なくなる傾向が認められた。

第VI層：谷埋土2は古代に属する。調査時に河川跡ととらえていたのは最深部の落ち込み部分で、南西-北側へ蛇行している。I区東壁（I-J断面）では標高25.2mで検出し、12層に細分した。層厚は最も厚い箇所で66cmであった。遺物は上層、特に最上層の1層に集中する。堆積状況から4層以下も第VI層に含めたが他時期の可能性もある。1層と一連のシルト層はIV区まで分布しており、最下部には礫が多く含まれる箇所もあった。IV区北壁（C-D断面）では標高23.1mで検出し、6層で層厚40cmであったが、遺物は出土しなかった。

第VII層：縄文～弥生時代谷埋土1は、谷の最深部にのみ堆積する。III区で弥生時代中期末～後期の土器、IV区で縄文土器、石鏃を含んでいたが、最深部の掘削を行った大半の箇所からは遺物が出土しなかった。しかし、III区で出土した弥生時代中期末～後期の土器は、当該期の集落が調査区周辺に存在した可能性を示す貴重な資料となった。層序は複雑で、III区M-N断面、IV区北壁（C-D断面）に見られるように細砂・粗砂・砂礫層から形成され、谷埋土2に切られている。詳細な時期は不明であるが、縄文～弥生時代における複数回の水流による堆積層と考えられる。遺物が出土していない箇所では、V層と比較してしまりがないこと、切り合い関係から両者を区別した。

第VIII層：縄文～弥生時代谷埋土2は、地山（弥生時代以降の遺構面形成層）である。調査区内ではシルト・粗砂・礫層の互層となっており、詳細な時期は不明であるが、弥生時代以前の水流による堆積層と考えられる。第VI・VII層と比較して堅くしまりがあり、谷最深部においては湧水も顕著であった。遺物が含まれている可能性を考え、III区・IV区でサブトレチを設けて精査したが、遺物は出土しなかった。I区試掘Aトレチ西側付近で標高24.8m、試掘Bトレチ付近では標高22.35mで検出しており、2.45mの高低差があった。

第V層・VI層出土の古代の遺物はI・II区に集中しており、かつ北西部ほど少くなる傾向から、これらの遺物は調査区南東部側から廃棄されたものと考えられる。新宮建物予定地はII区北半以北であったが、谷の最深部については、試掘調査A～Cトレチを拡張・精査し、谷埋土2上面を検出した結果、IV区から遺物の出土がきわめて少なかったため、IV区の掘削は一部を除いて行わなかった。



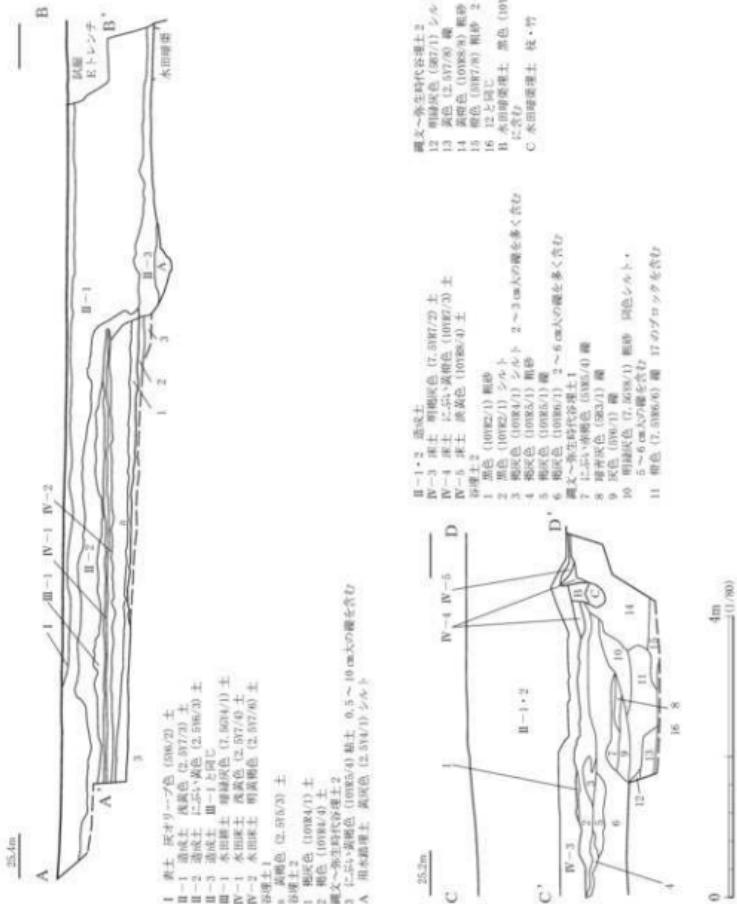
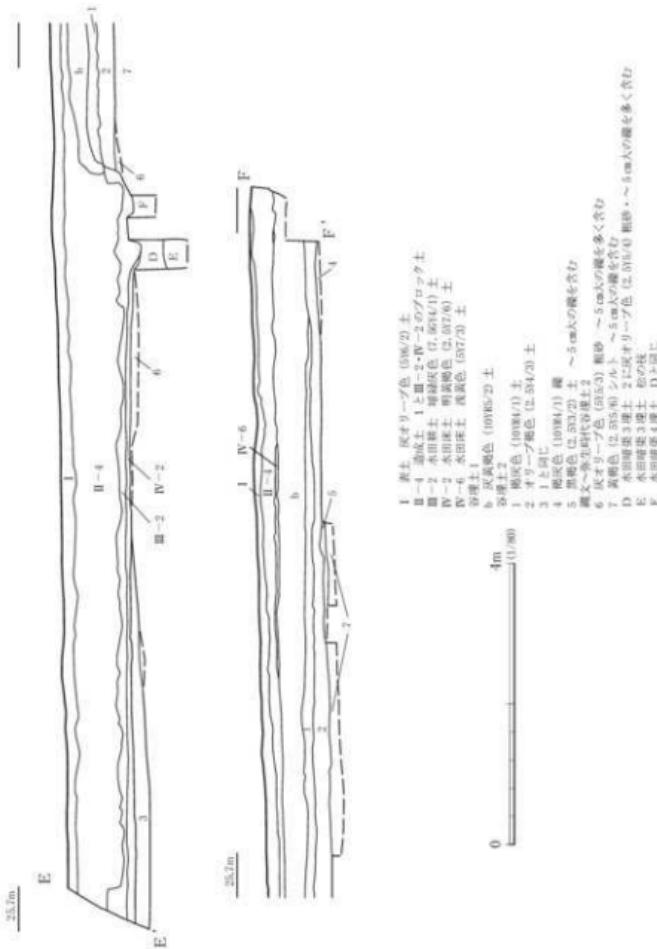


Fig.9 調査区断面図(1)



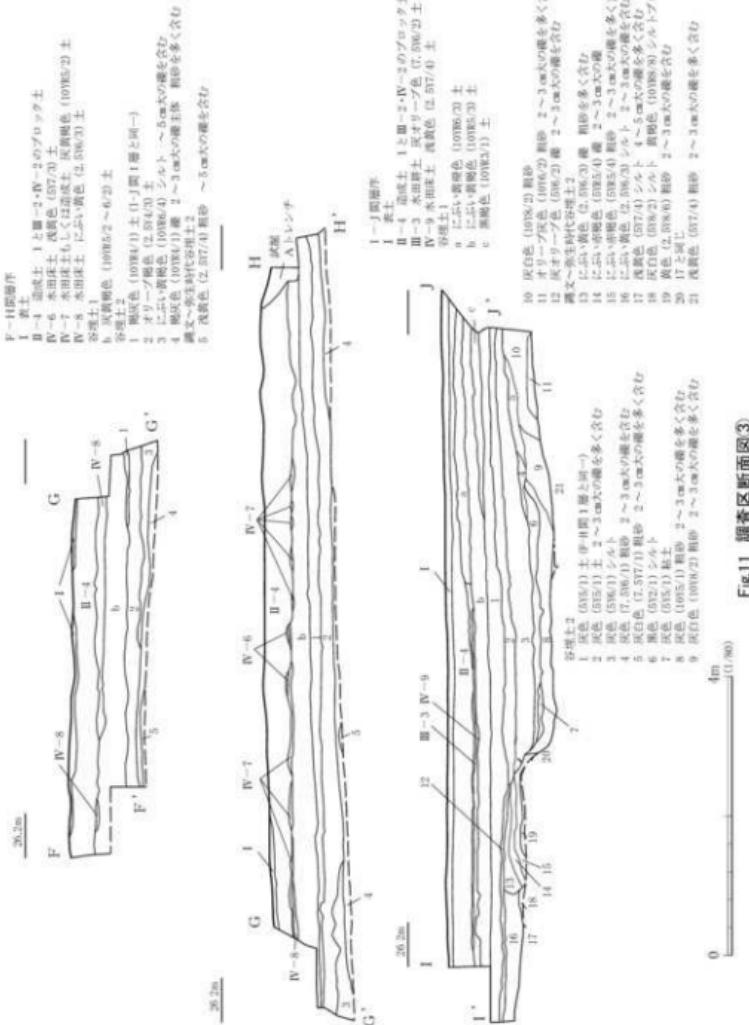


Fig.11 調査区断面図③

吉田構内総合研究棟新宮に伴う発掘調査

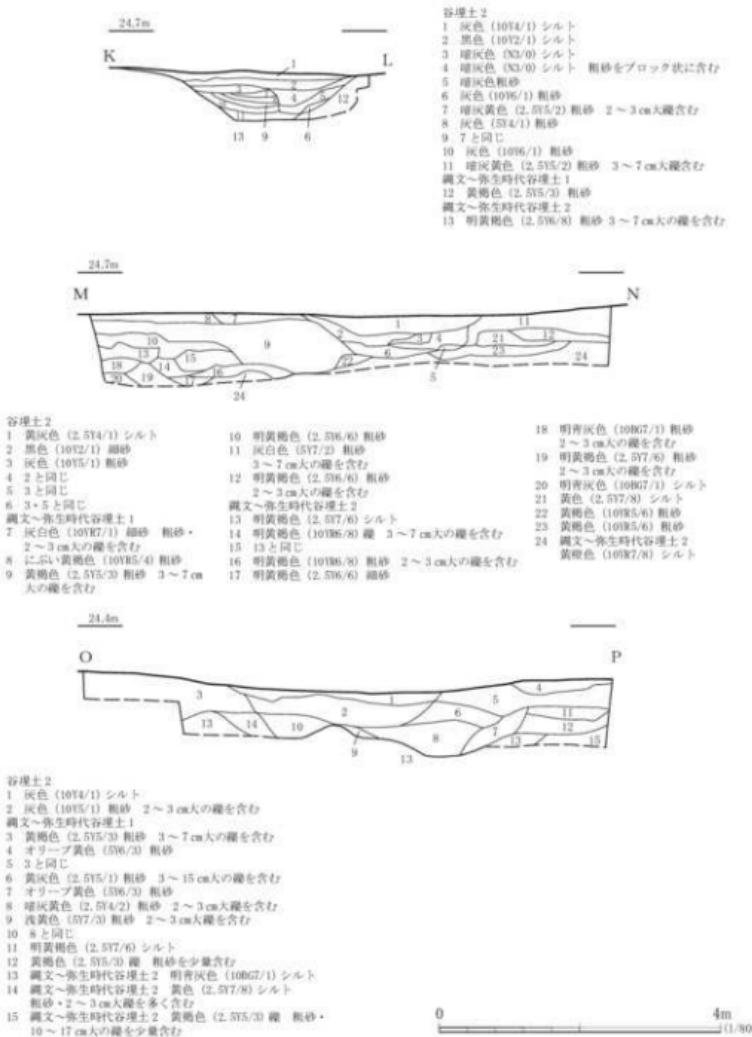


Fig.12 調査区断面図④

3 遺構 (Fig.13・14, PL.10 (3) (4)・PL.11)

今回の調査では、第VII層を検出面として、用水路1条、水田暗渠4条、土壙12基と杭列・ピットを検出した。用水路と水田暗渠は、棚田に伴うもので、いずれも地形に沿った南西-北東方向に流路方向を持つ。土壙のうち、第1～10号土壙は埋土が直上に堆積していた第VI層と近似しており、埋土が単層であることから、自然地形の落ち込みであった可能性がある。また、配置に規則性が見られないことから、掘立柱建物の柱穴であった可能性は低い。第11・12号土壙は棚田に伴う遺構である。

第1号土壙 (Fig.13, PL.10 (3))

平面形が楕円形で長軸69cm、短軸49cm、検出標高は23.88mで、深さは検出面から15cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土であった。出土遺物はない。

第2号土壙 (Fig.13, PL.10 (3))

平面形は不整形で、長軸147cm、短軸110cm、検出標高は23.82mで、深さは検出面から13cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土。須恵器甕胴部片が出土した。

第3号土壙 (Fig.13, PL.10 (4))

平面形は不整形で、長軸164cm、短軸82cm、検出標高は23.74mで、深さは検出面から21cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土であり、須恵器坏口縁部片が出土した。

第4号土壙 (Fig.13, PL.11 (1))

平面形は長楕円形で、長軸130cm、短軸60cm、検出標高は23.7mで、深さは検出面から17cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土であった。出土遺物はない。

第5号土壙 (Fig.13, PL.11 (1))

平面形は不整形で、長軸143cm、短軸111cm、検出標高は23.68mで、深さは検出面から22cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土であった。出土遺物はない。

第6号土壙 (Fig.14, PL.11 (1))

平面形は不整形で、長軸61cm、短軸49cm、検出標高は23.7mで、深さは検出面から17cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土であった。出土遺物はない。

第7号土壙 (Fig.14, PL.11 (2))

平面形は不整形で、長軸149cm、短軸61cm、検出標高は23.67mで、深さは検出面から11cmである。埋土は単層で、褐灰色(10YR4/1)土であった。出土遺物はない。

第8号土壙 (Fig.14, PL.11 (3))

平面形は楕円形で長軸98cm、短軸95cm、検出標高は23.45mで、深さは検出面から

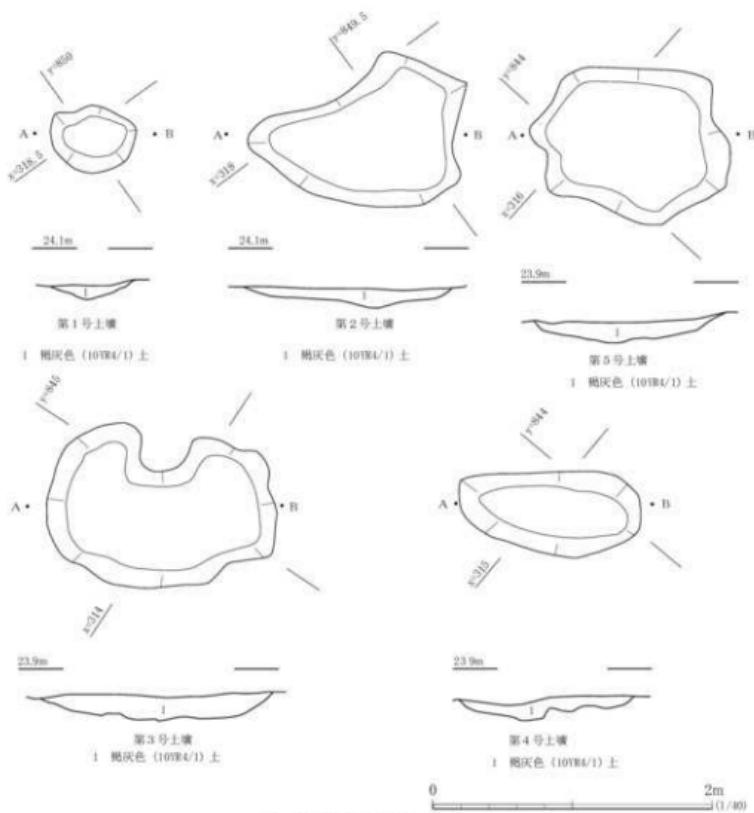


Fig.13 遺構平面図・断面図①

11 cmである。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土とにぶい黄褐色（10YR5/4）土とのプロック土であった。出土遺物はない。

第9号土壤 (Fig.14.PL.11 (4))

平面形は楕円形で長軸129 cm、短軸103 cm、検出標高は23.35 mで、深さは検出面から23 cmである。埋土は単層で、褐灰色（10YR4/1）土とにぶい黄褐色（10YR5/4）土とのプロック土であった。出土遺物はない。

遺構

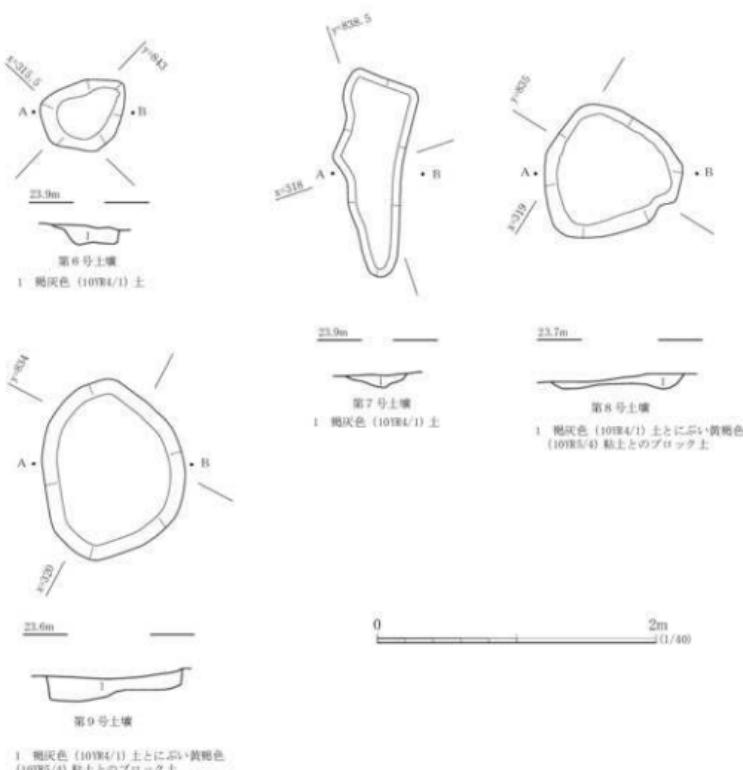


Fig.14 遺構平面図・断面図②

第10号土壤

平面形は楕円形で長軸60cm、短軸48cm、検出標高は24.34mで、深さは検出面から15cm、埋土は黒褐色(2.5Y3/1)土であった。出土遺物はない。

杭列 (Fig. 8)

III区で杭列1～4を検出した。断ち割って確認した杭は、検出面からの深さが3～17cmであった。埋土が谷埋土2と近似していたこともあり、どの層から打ち込まれたものかは確認できなかったが、近世以後の棚田に関連する遺構の可能性が高い。

4 遺物

主な遺物を土器、石器別に報告する。

(1) 土器

遺構出土土器 (Fig.15-1~2, PL.12)

1は第2号土壤出土の須恵器壺胴部。外面に平行叩き、内面に当て具痕が残る。2は第3号土壤出土の須恵器壺口縁部。

IV区縄文～弥生時代谷埋土1出土土器 (Fig.15-3~4, PL.12)

3・4は縄文土器深鉢胴部。後～晩期と考えられる。3は内外面に二枚貝条痕を施す。4は外面に二枚貝条痕、内面にナデを施す。

III区縄文～弥生時代谷埋土1出土土器 (Fig.15-5~8, PL.12)

5は須玖式系鉢先口縁壺。口縁部が下垂する形状から、弥生時代中期～後期初頭に位置づけられる。口縁部上面に4箇所円形浮文を貼り付ける。6は弥生土器壺。跳ね上げ口縁を呈し、5と同様、弥生時代中期～後期初頭に位置づけられる。7は弥生土器壺。底面が小さくやや厚いことから、弥生時代後期に位置づけられる。8は弥生土器壺もしくは鉢の底部。弥生時代中～後期と考えられる。

試掘Aトレンチ谷埋土2出土土器 (Fig.15-9~Fig.17-35, PL.12~14)

9は須恵器壺頭～胴部。外面に平行叩き、内面に当て具痕が残る。10は須恵器壺蓋片。径1.9cmの扁平なつまみが付く。11は須恵器壺蓋か。内面に「×」のヘラ記号が見られる。12～15は須恵器壺蓋。12、13は口縁部内面にかえりを持つ。14・15は口縁部を下垂させる。16～19は須恵器高台付壺。16は高台が高く、外側に張り出し内端部で接地する。内外面には丁寧な回転ナデを施す。底面に墨書が見られるが、本学人文学部 橋本義則教授に実見していただいたところ、字ではないとのことであった。17は高台貼付部で剥離する。高台は外側に張り出す。18は底～胴部境界よりやや内側に断面三角形の低い高台が付く。19は底～胴部境界に断面方形のやや低い高台が付く。20～24は須恵器高壺。20・21は壺部で口縁部を外反させる。22は脚～裾部。壺部との接合面で剥離しており、裾端部を下垂させる。23・24は裾部片で、22と同様に端部を下垂させる。25～30は須恵器壺。25は口縁部を外反させる。26は口縁部が直線的に外反し、外面に2条の沈線を施す。27・28は胴部片。27は胴部中位の接合面で剥離する。屈曲部とその上位に2条単位の沈線を施す。29・30は胴～底部。30の底面には重ね焼き痕が残る。31は須恵器壺口縁部。口唇部をつまみ上げる。32～34は須恵器壺胴部。外面はいずれも平行叩き後、カ

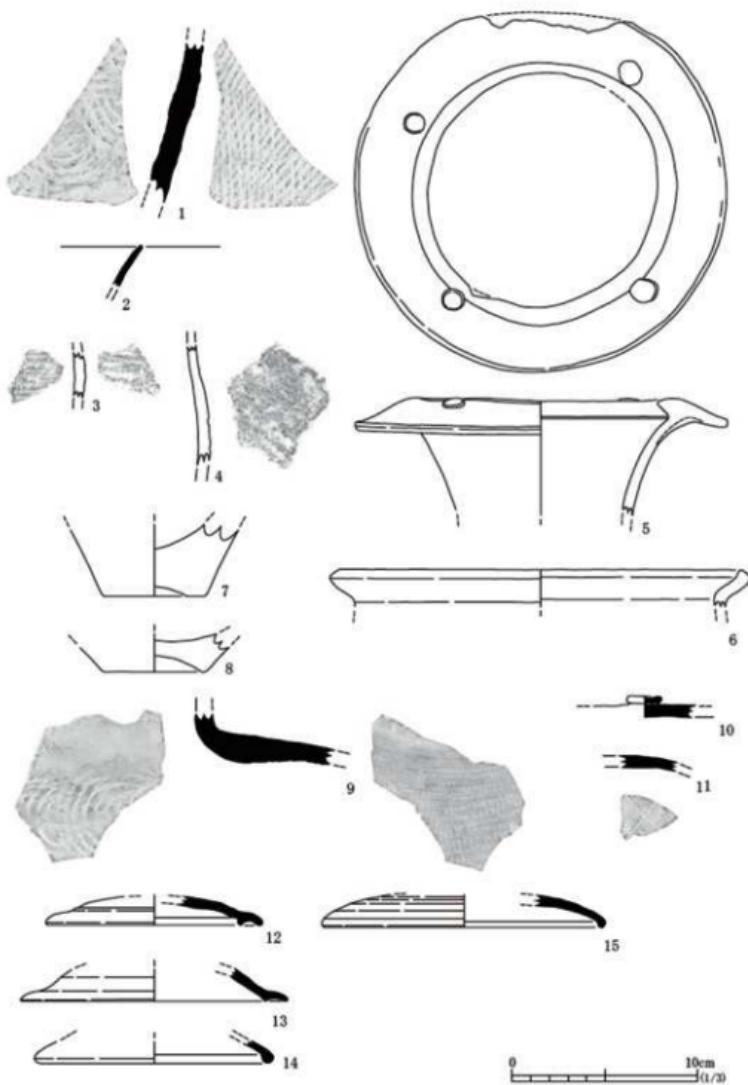


Fig.15 出土遺物実測図①

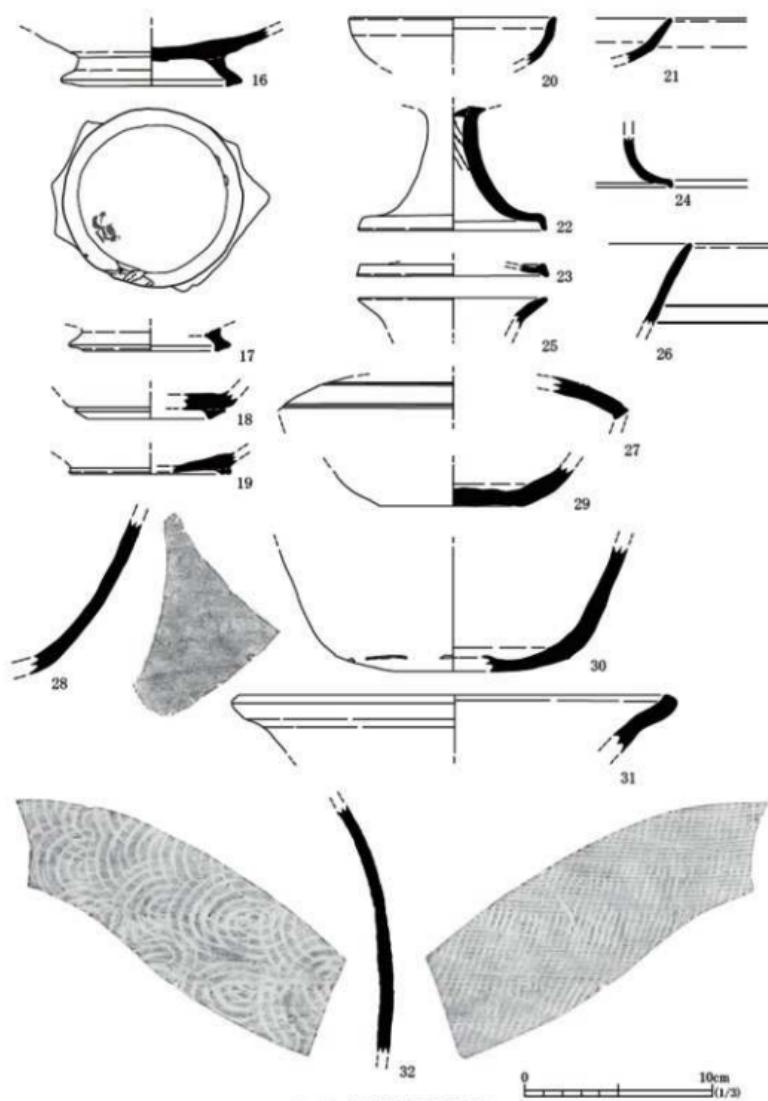


Fig.16 出土遺物実測図②

キメを施す。内面には当て具痕が残る。35は平瓶の円盤閉塞部。器壁6mmの胴部に厚さ5mmの円盤を重ねて接合している。

I区谷埋土2下位（F-H断面4層・I-J断面12層）出土土器

（Fig.17-36~41, PL.15）

36は土師器壺口縁部。37は須恵器坏蓋。径2.3cmの扁平なつまみが付く。38は須恵器高台付坏。高台が高く、外側に張り出す。39は須恵器高坏坏～脚部。外面に2条のヘラ描沈線を施す。40・41は須恵器甕。40は口縁～頸部。口唇部は内湾気味に立ち上がる。41は胸部～底部。外面は平行叩き後ナデを施す。内面にはあて具痕が残る。

I区谷埋土2上位（F-H断面1・2層・I-J断面1層）出土土器

（Fig.17-42~48, PL.15）

42は須恵器坏蓋。口縁部を下垂させる。43～46は須恵器高台坏。43は底～胴部境界よりやや内側に外側に弱く張り出す高台が付く。44は高台が高く外側に張り出す。45は外側に張り出す高台が付く。端部をやや回ませ、内端部で接地する。46は端部を拡張した低い高台が付く。47は須恵器高坏口縁部か。48は須恵器甕口縁部。胎土は0.5～1.5mm大の砂粒を少量含むが比較的精緻で、焼成状況は良好である。口唇部に面取りを施す。

II区谷埋土2下位（E-F断面5層）出土土器（Fig.18-49~51, PL.15）

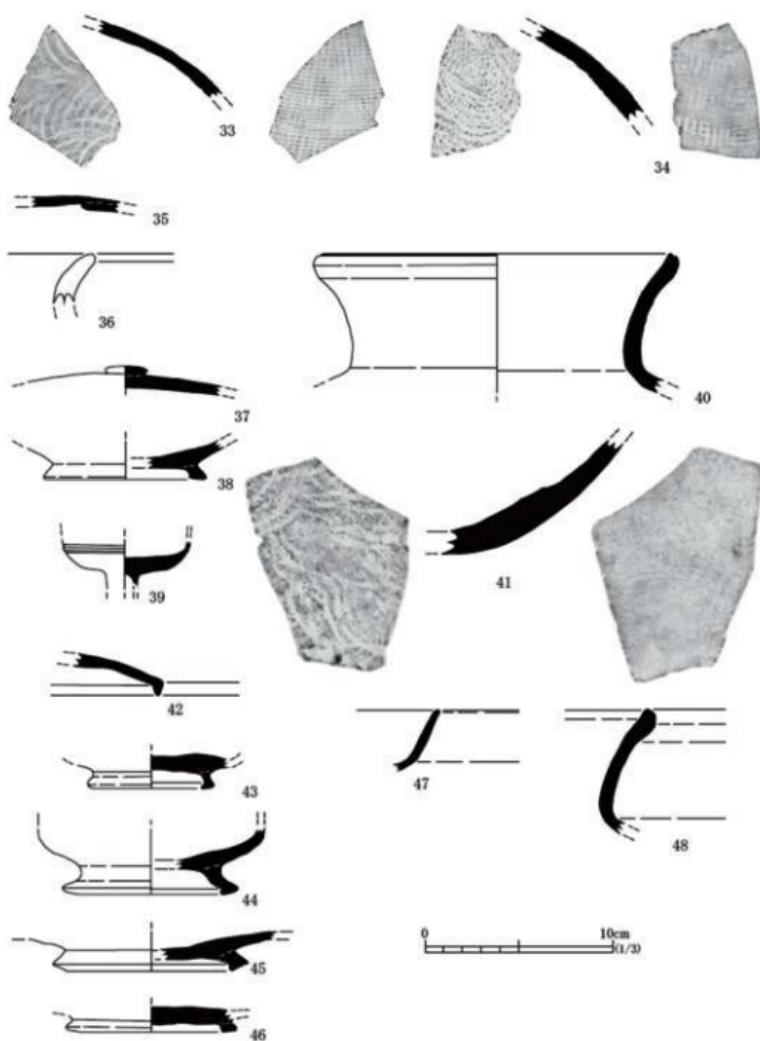
49は弥生土器甕底部。内外面とも風化が激しい。前～中期と考えられる。50は須恵器坏蓋。焼成不良で、天井部は黒色を呈する。51は須恵器高坏裾部。裾端部を下垂させる。

II区谷埋土2上位（E-F断面5層）出土土器（Fig.18-52~56, PL.15・16）

52は須恵器坏蓋。口縁部を下垂させる。53は須恵器高台付坏。底～胴部境界よりやや内側に外側に張り出す高台が付く。端部を回ませ、内端部をつまみ出している。54は須恵器高坏坏部か。口縁部は内湾しながら立ち上がる。小片のため坏の可能性もある。55は須恵器甕口縁部～胴部。口縁部を肥厚させ、口唇部に面取りを施す。口縁部内外面には回転ヨコナデを施し、内面には「×」のヘラ記号が見られる。胴部外面には平行叩き、内面には当て具痕が残る。56は須恵器円面甕。試掘・事前調査出土土器が接合した。陸部は欠損するが、海部には墨が付着する。透かし穴は図の中心部で反転したものを図示した。

III区谷埋土2上位（E-F断面5層）出土土器（Fig.18-57~61, PL.16・17）

57は弥生土器甕底部。底部が外側に張り出し、上底である。中期中頃～末と考えられる。58は須恵器坏蓋。口縁部内面にかえりを持つ。59は須恵器高台付坏。高台が外側に張り出し、内端部で接地する。内底面に「△」のヘラ記号が見られる。60は須恵器高台付坏。



遺物

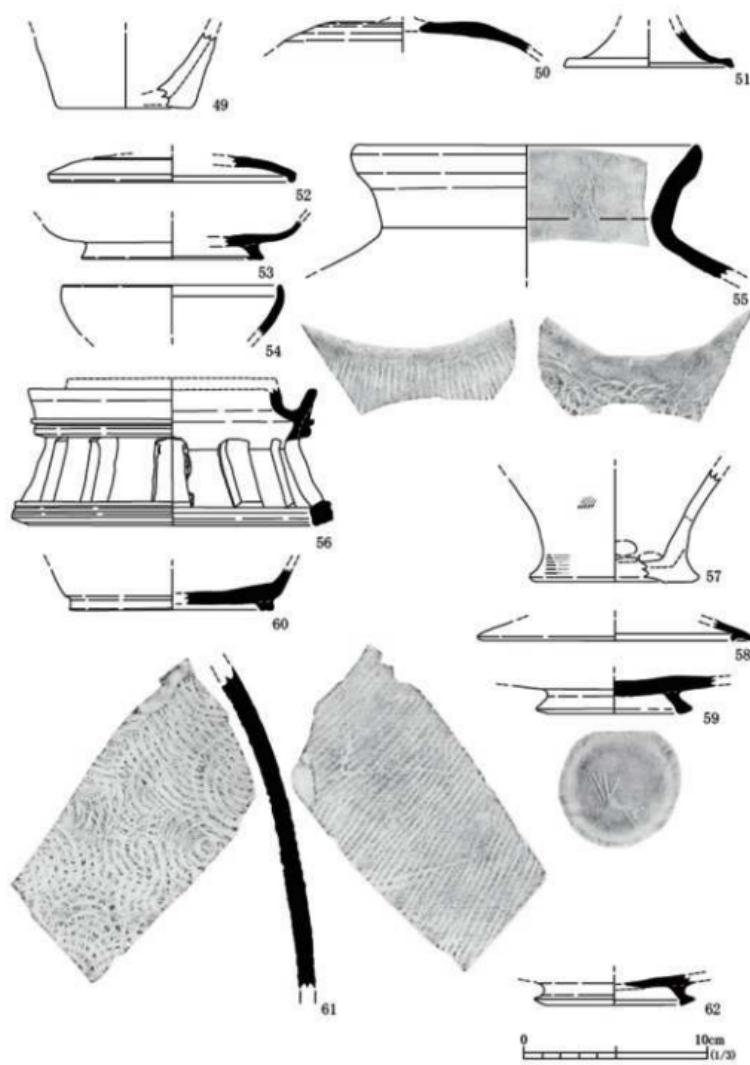


Fig.18 出土遺物実測図④

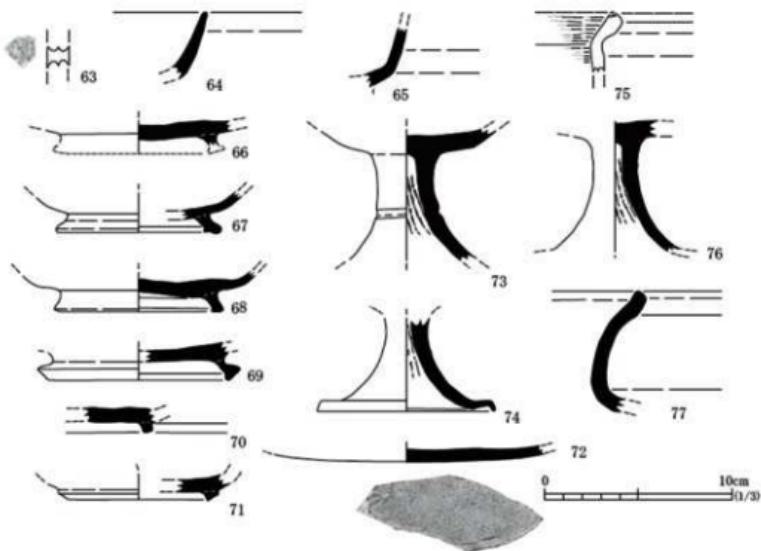


Fig.19 出土遺物実測図⑤

底～胴部境界に断面方形のやや低い高台が付く。61は須恵器壺胴部。外面は平行叩き後、カキメを施す。内面には當て具痕が残る。

IV区床面清掃時出土土器 (Fig.18 - 62, PL17)

62は須恵器高台付壺底部。高台が外側に張り出す。端部はつまみ出され、内端部で接地する。

谷埋土 1 出土土器 (Fig.18 - 63 ~ 77, PL17・18 (1))

63は出土地区不明。六連式製塙土器の胴部。内面に細かな布目痕が残る。64～75は試掘Aトレンチ出土。64、65は須恵器壺。64は口縁～胴部。65は胴～底部で、高台接合部がわずかに残存する。66～71は須恵器高台付壺底部。66は端部を欠損する。67～69は高台が外側へ張り出す。67は端部を回ませ、内外両端で接地する。68は端部に面をとり、ほぼ全面で接地する。69は端部をつまみ出し、内端部で接地する。70は断面方形の高台が付く。71は底～胴部境界に断面三角形のやや低い高台が付く。72は須恵器皿の胴～底部で、外底面に「△」のヘラ記号が見られる。73～74は須恵器高壺。73は脚部に1条沈線を施す。74は据部で、端部を下垂させる。75は瓦質土器足鍋の口縁部。76はI区出土

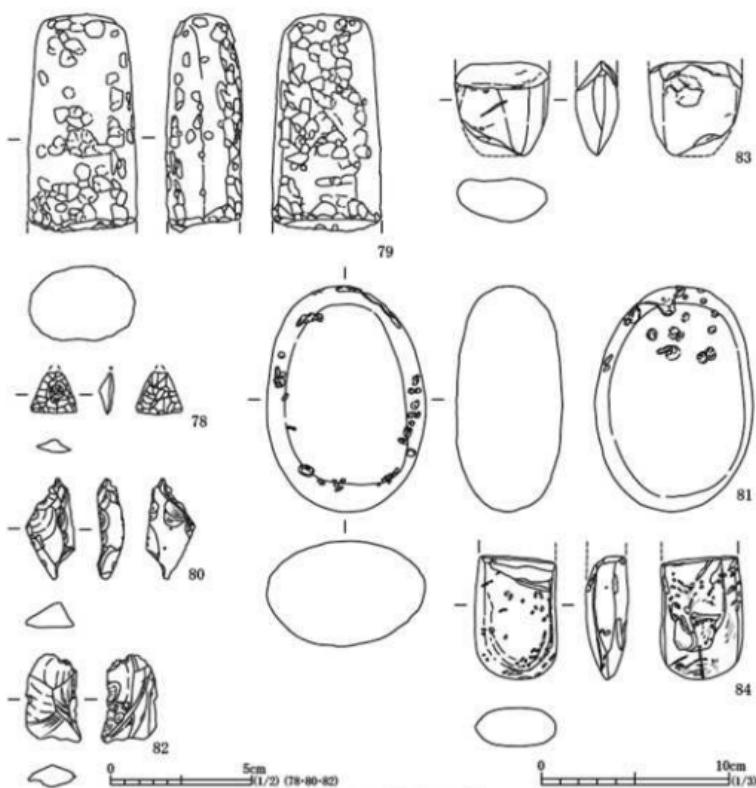


Fig.20 出土遺物実測図⑤

の須恵器高坏脚部。77はⅢ区出土の須恵器甕口縁部。口唇部をつまみ上げる。

(2) 石器 (Fig.20, PL.18 (2))

78はIV区縄文～弥生時代谷埋土1出土の石鎌。石質は安山岩。79はⅢ区縄文～弥生時代谷埋土1出土の磨製石斧。石質は安山岩。敲打痕があり、折損後転用したとみられる。80はAトレンチ谷埋土2上位出土の剥片。石質は黒曜石。旧石器の可能性もある。81・82はⅡ区谷埋土2上位出土。81は磨石・敲石。石質は安山岩。82は剥片で、石質は姫島産黒曜石。83はⅢ区谷埋土2上位、84はIV区Ⅲ-1層出土。いずれも磨製石斧で、上半部を折損する。石質は粘板岩。以上の石器について、計測値は観察表を参照されたい。

5 小結

今回の調査の結果、調査区は埋没谷の中に位置することが判明した。弥生時代以降の遺構面形成層も縄文～弥生時代の谷の堆積土と考えられる。調査区では縄文～弥生時代谷埋土1から縄文土器（後～晩期の深鉢）、弥生土器（中期末～後期初頭の壺・甕）、石鎌、石斧が出土した。また、谷埋土2からは古代の土師器、須恵器、谷埋土1からは古代の土師器、須恵器、中世の瓦質土器が出土した。

今回調査区から約100m南東に位置する第II地区第1調査区では¹⁾弥生時代前期～終末期の土器が出土しており、弥生時代の遺構の存在が確実視されている。今回の弥生土器の出土も第II地区周辺に当該期の遺構ないし集落が存在したことを裏付ける。

古代の遺物は谷埋土2・谷埋土1から大量に出土し、谷埋土1には中世の瓦質土器がわずかに含まれていた。これらの遺物は建物予定地外である調査区南東部のI区から多く出土したことから、調査区南東部側から廃棄された可能性が高い。古代の遺物は時期比定が困難な小片が多いが、須恵器は8世紀前半～中頃が主体で、8世紀後半～9世紀前半（18、19、60、71など）を少量含む。上記は動物医療センター敷地で谷が8世紀中頃には埋没を開始し、9世紀頃には窪地化していたとする調査成果²⁾と概ね一致する。また、須恵器には円面鏡や墨書を持つものなど、官衙の存在を推測させる遺物も含まれていたことが注目される。以上から、谷は弥生時代中期末～後期初頭以降に堆積が進行し、古代を経て中世（15～16世紀頃）には堆積が完了したとみられる。

検出した遺構のうち、用水路、水田暗渠、土壙2基は統合移転直前まで存在した棚田に伴うもので、杭列も上記に伴う可能性が高い。土壙10基については、埋土が直上に堆積していた谷埋土2に近似することから、地形の落ち込み部であった可能性がある。

以上の調査成果について、平成12年8月2日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会で審議した結果、建物新宮予定地で埋没谷は検出されたが、顕著な遺構・遺物が認められなかつたことから、記録保存とすることが決定した。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田遺跡第II地区の調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』、2007年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属動物医療センター改修III期工事に伴う本発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』、2010年）

Tab.2 出土遺物(土器)観察表

遺物番号	出土場所・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	深度(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	法量()は復元積	備考
								①②灰色	0.5~1.5mmの砂粒を多く含む		
1	第2号土壤		須恵器 魚	胴部				①②灰色	0.5~1.5mmの砂粒を多く含む		
2	第3号土壤		須恵器 环	口縁部				①灰褐色 ②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む		
3	B区	縄文~弥生時代谷原上	縄文土器 深鉢	胴部				①にふい黄色 ②灰褐色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	IV/C-D断面9層	
4	B区	縄文~弥生時代谷原上	縄文土器 深鉢	胴部				①にふい黄色 ②灰褐色	0.5~1.5mmの砂粒を多く含む	IV/C-D断面9層	
5	■区	縄文~弥生時代谷原上	弥生土器 直	口縁部	20			①にふい黄色 ②灰褐色 ③浅黄色	0.5~1mmの砂粒を多く含む		
6	■区	縄文~弥生時代谷原上	弥生土器 魚	口縁部	22.6			①②浅黄色	0.5~2mmの砂粒を多く含む		
7	■区	縄文~弥生時代谷原上	弥生土器 魚	底部	5.4			①灰褐色 ②浅黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む		
8	■区	縄文~弥生時代谷原上	弥生土器 魚もしくは鉢	底部(5.4)				①灰白色 ②灰オリーブ色	0.5~3mmの砂粒を多く含む		
9	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	頭部~胴部				①②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒を少く含む	I-J断面12層	
10	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 环蓋	天井部				①②灰白色	0.5~1mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
11	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 环蓋	天井部				①②灰白色	0.5~1mm以下の砂粒を少く含む	I-J断面1~3層内面に黒帯あり	
12	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 环蓋	口縁部	(11.6)			①灰褐色 ②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
13	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 环蓋	口縁部	(14.4)			①灰白色 ②灰褐色	0.5~1mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
14	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 环蓋	口縁部	(12.6)			①灰色 ②灰褐色	0.5~1.5mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
15	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 环蓋	口縁部	(15.6)			①②灰褐色	0.5~1.5mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
16	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高台付环	胴部~底部	9.6			①②灰褐色	0.5~2.5mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層底面に墨書きあり	
17	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高台付环	底部	7.0			①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
18	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高台付环	底部	(6.2)			①②灰褐色	0.5~1mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
19	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高台付环	底部	(8.6)			①灰褐色 ②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒をやや多く含む	谷埋土2上位	
20	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高环	口縁部	(11.6)			①②灰白色	0.5~1mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
21	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高环	口縁部				①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
22	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高环	口縁部	10.0			①②灰白色	0.5~1mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
23	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高环	口縁部	(10.2)			①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
24	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 高环	胴部				①②灰白色	0.5~2mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
25	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 長颈壺	口縁部	(16.6)			①②灰褐色	0.5~1mmの砂粒をやや多く含む	I-J断面1~3層	
26	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 長颈壺	口縁部				①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
27	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 長颈壺	胴部				①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
28	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	胴部				①灰褐色 ②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
29	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	胴部~底部	(7.6)			①②灰白色	0.5~2mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
30	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	胴部~底部				①②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
31	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	口縁部	(23.6)			①灰色 ②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	谷埋土2上位	
32	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	胴部				①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	
33	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 魚	胴部				①②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少く含む	I-J断面1~3層	

遺物 番号	出土地区・ 遺構	層・位	器種	部材	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (外表面内面)	胎土	備考
34	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 鼓	胴部				①焼白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	I-J断面1~3層
35	Aトレンチ	谷埋土2	須恵器 平瓶	天井部				②灰白色	1mmの砂粒を少量含む	I-J断面1~3層
36	I区	谷埋土2 下位	土解器 鼓	口縁部				①灰白色 ②淡黄色	0.5~3mmの砂粒を含 む	
37	I区	谷埋土2 下位	須恵器 环盡	天井部				①焼白色 ②灰色	1~2mmの砂粒を少量 含む	
38	I区	谷埋土2 下位	須恵器 高台付 环	直部 (8.7)				①焼白色	0.5~1mmの砂粒をや や多く含む	器の可歴性あり
39	I区	谷埋土2 下位	須恵器 高环	胴部 ~脚部				②灰白色	0.5~1mmの砂粒をや や多く含む	
40	I区	谷埋土2 下位	須恵器 鼓	口縁部 ~頂部 (14.6)				②灰白色	1~1.5mmの砂粒を少 量含む	
41	I区	谷埋土2 下位	須恵器 鼓	胴部 ~底部				①淡灰色 ②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒をや や多く含む	
42	I区	谷埋土2 上位	須恵器 环盡	口縁部				①焼白色	1~3mmの砂粒を少 量含む	
43	I区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	底部 6.8				①焼白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	
44	I区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	胴部 ~底部 (9.4)				②灰白色 ③黄灰色	0.5~2.5mmの砂粒を少 量含む	
45	I区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	底部 (10.6)				①灰色 ②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒をや や多く含む	
46	I区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	底部 9.0				①②灰色	1mmの砂粒を少量含む	
47	I区	谷埋土2 上位	須恵器 高环	口縁部				②灰白色	0.5の砂粒を少量含む	
48	I区	谷埋土2 上位	須恵器 鼓	口縁部				①焼白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	
49	II区	谷埋土2 下位	弥生土器 鼓	底部 (7.0)				①②黄褐色 ③灰黄色	0.5~1.5mmの砂粒を少 量含む	II-K-L断面2~4層
50	II区	谷埋土2 下位	須恵器 环盡	天井部				②灰白色	0.5~2mmの砂粒をや や多く含む	II-K-L断面2~4層
51	II区	谷埋土2 下位	須恵器 高环	胴部 (9.0)				②灰白色 ③灰色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む	II-K-L断面2~4層
52	II区	谷埋土2 上位	須恵器 环盡	口縁部 (13.4)				②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	
53	II区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	胴部 ~底部 (9.8)				②灰白色	0.5~1mmの砂粒を多 量含む	
54	II区	谷埋土2 上位	須恵器 高环	底部 (10.6)				②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	器の可歴性あり
55	II区	谷埋土2 上位	須恵器 鼓	口縁部 (14.6)				②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	口縫部内面にヘラ記 号あり
56	II区	谷埋土2 上位	須恵器 鼓	口縁部 ~脚部 (15.6)				①灰色 ②明灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少 量含む	年級XV・XVI Fig82-1と同一
57	II区	谷埋土2 上位	弥生土器 鼓	底部 (9.2)				②淡黄色 ③黄灰色	0.5~1mmの砂粒をや や多く含む	
58	II区	谷埋土2 上位	須恵器 环盡	口縁部 (14.6)				②焼白色	0.5~2mmの砂粒を少 量含む	
59	III区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	底部 8.4				①焼白色	1mmの砂粒をやや多く 含む	外底面にヘラ記号 あり
60	III区	谷埋土2 上位	須恵器 高台付 环	胴部 ~底部 (10.4)				②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒をや や多く含む	
61	III区	谷埋土2 上位	須恵器 鼓	胴部				①焼白色	0.5~1.5mmの砂粒を少 量含む	
62	IV区	床面 諸結構	須恵器 高台付 环	底部 (8.6)				②灰白色	1mmの砂粒を少量含む	
63		谷埋土1	六角式製 塗土器	胴部				①灰色 ②にふい褐色	0.5~2mmの砂粒を多 量含む	
64	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器 环	口縁部 ~脚部				②焼白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	
65	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器 环	胴部				①焼白色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	
66	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器 高台付 环	底部				①焼白色	0.5~1.5mmの砂粒を少 量含む	
67	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器 高台付 环	胴部 (8.8)				②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒をや や多く含む	

出土遺物観察表

遺物 番号	出土地区・ 遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	脚高 (cm)	色調 (①外面②内部)	胎土	備考
68	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	高台付 环	脚部 ～底部	(9.0)		①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む	
69	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	高台付 环	底部	(9.6)		①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む	
70	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	高台付 环	底部			①②灰色	0.5～1mmの砂粒をや や多く含む	
71	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	高台付 环	底部	(7.4)		①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む	
72	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	环	脚部 ～底部			①灰白色 ②灰色	0.5～1mmの砂粒をや や多く含む	外底面にヘア記号 あり
73	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	高环	环部 ～脚部			①②灰白色	0.5～1mmの砂粒をや や多く含む	
74	Aトレンチ	谷埋土1	須恵器	高环	脚部	(9.6)		①灰白色	0.5～1mmの砂粒を多 く含む	
75	Aトレンチ	谷埋土1	瓦質土器	足端	口縁部			①②灰色	0.5～4mmの砂粒を少 量含む	
76	I区	谷埋土1	須恵器	高环	底部			①灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を やや多く含む	
77	Ⅳ区	谷埋土1	須恵器	腹	口縁部			①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を やや多く含む	

Tab.3 出土遺物(石器)観察表

遺物 番号	出土地区・ 遺構	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
78	IV区	縄文～弥生 時代谷埋土1	打製石器	1.5	1.6	0.4	0.66	安山岩	
79	Ⅲ区	縄文～弥生 時代谷埋土1	磨製石斧	11.4	5.8	3.9	494.6	安山岩	
80	Aトレンチ	谷埋土2 下位	剥片	3.6	1.7	0.85	3.81	黒曜石	I区1～J断面8～11組
81	Ⅲ区	谷埋土2 上位	磨石・轆石	12.0	8.4	5.6	818.9	安山岩	
82	Ⅲ区	谷埋土2 上位	剥片	3.1	1.8	0.7	3.3	超島産黒曜石	
83	Ⅲ区	谷埋土2 上位	磨製石斧	5.0	5.0	2.25	61.83	粘板岩	
84	Ⅳ区	Ⅲ-1層	磨製石斧	6.6	4.3	2.0	96.2	粘板岩	

第3節 立会調査

調査地区 吉田構内 R-19、S-20

調査期間 平成13年8月17日



Fig.21 調査区位置図

調査面積 約 1 m²

調査結果 総合研究棟新営工事に伴い、工事中の電源を確保するために、仮設電柱を設置することになり、立会調査を行った。電柱はA～Cの3地点で設置された。A地点は試掘調査A調査区の東側に位置する。上面を除去した関係で、現地表下60cmまでが旧耕土・河川埋土、以下60cm～100cmが弥生時代以降の遺構面形成層である黄褐色粘土で、100～200cmが緑灰色シルトであった。

B地点は現地表下136cmまでが造成土で、以下136～146cmが黒色粘土、146～186cmが弥生時代以降の遺構面形成層である青灰色シルトであった。黒色粘土は谷埋土と考えられる。C地点では、現地表下110cmまでが造成土で、以下110～160cmが弥生時代以降の遺構面形成層である黄褐色粘土、160～210cmが赤褐色粘土(風化した片岩含む)であった。また、造成土から須恵器片が出土した。以上の調査地点では、工法上、土層の詳細な観察はできなかった。

第3章 平成12年度山口大学構内の試掘調査

第1節 常盤構内の試掘調査

1 福利厚生棟新営に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

平成12年度補正予算により、常盤構内に福利厚生棟の新営が確定したことを受け、新営建物予定地の試掘調査を行った。調査期間は平成12年2月26日～3月8日である。調査トレーニングはA～Dの4箇所で、A・Bトレーニングは新営建物に伴う共同溝部分、C・Dトレーニングは新営建物予定地内に設定した。建物予定地には既設のサークル棟及び売店が所在するため、調査トレーニングを建物予定地の西部に設定せざるを得なかった。このため、東部については、予定地東側に一段低く敷設されている構内道路との間の崖面を調査することで補足した。調査面積はAトレーニングが4m²、Bトレーニングが2m²、Cトレーニングが23.5m²、Dトレーニングが9m²、合計38.5m²である。

(2) 基本層序 (PL.20)

A・Bトレーニングでは、現地表下約15cmまでが表土で、その直下が地山であった。Cトレーニングでは、現地表下20cmまでが表土・造成土で、以下約20～40cmは地山、約40cm以下が岩盤であった。Dトレーニングでは、現地表下約20cmまでが表土・造成土で、以下約20～75cmは地山、約75cm以下が岩盤で、東側崖面はC・Dトレーニングとほぼ同様であった。

(3) 調査の成果

今回の調査では埋蔵文化財を検出することができなかつた。これは調査トレーニングの周辺が大学造成により大規模な削平を受けているためである。グラウンドは新営建物予定地より約1m標高が低く、北西方向に向かって落ち込む谷を埋め立てて造成している。この際、標高の高かつた南西辺と南東辺を削平した上で、A・B調査区の表土直下が岩盤となるのはこのためと考えられ



Fig.22 調査区位置図

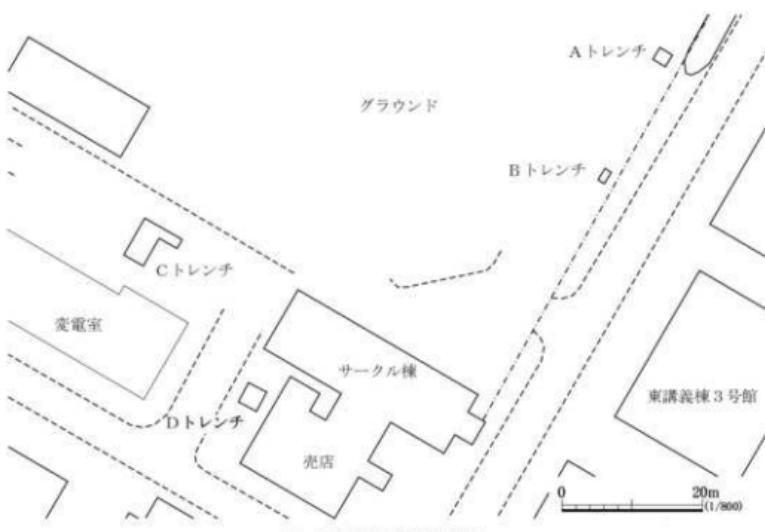


Fig.23 調査区設定位置図

る。一方、新営建物予定地は、上記のようにグラウンド・周辺の学科棟よりも約1m標高が高い。予定地内の既設建物は工学部発足当初（昭和23）のものであることを踏まえると、予定地を残して周囲を削平したことが推測される。C・Dトレンチでは削平が著しかったものの地山は残存しており、南側へ向けて厚く堆積している状況が確認できた。今回調査地点周辺の旧地形はC・Dトレンチ付近から北西側は谷地形で、南西から西側にかけてもなだらかに傾斜していたと推測される。

〔注〕

- 1) 本報告は村田裕一「工学部福利厚生棟新営工事に伴う試掘調査」（『平成13年3月26日埋蔵文化財資料運営委員会資料』、2001年）を元に田畠が執筆した。

第4章 平成12年度山口大学構内の立会調査

第1節 吉田構内の立会調査

1 犀舎及び周辺施設改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-8

調査期間 平成12年4月24日

調査面積 約3.6m²

調査結果 犀舎及び周辺施設改修工事に伴う排水溝設置のため、掘削幅・深度約30cm、長さ約12mの範囲で掘削を行った。調査の結果、掘削深度内はいずれも造成土の範囲でおさまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

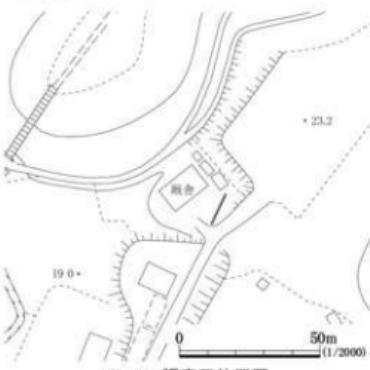


Fig.24 調査区位置図

2 架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-15、P-15・16、Q-14・15・18・19、R-13・14、R・S-19、S-14

調査期間 平成12年5月8・22・23・25・26・30日、6月1・2・5・7・8・14・15日

調査面積 約268m²

調査結果

層序と遺構

平成11年9月の台風18号の被害に伴う復旧工事に伴い、吉田構内の架空電線を取り外して埋設する工事が行われることになった。管路の掘削幅は約50cm、掘削深度約30～60cmで、ボイラー室から附属農場周辺（北部）と総合研究棟から家畜病院西側（南部）で掘削が行われた。調査の結果、調査区北部では造成土もしくは地山面を検出するにとどまった。

一方、調査区南部の道路部分は削平が著しく、造成土と地山を検出し、埋蔵文化財に支障はなかったが、家畜病院西側一帯では、現地表下50cm前後で遺物包含層を検出し、土師器、須恵器片が少量出土した。

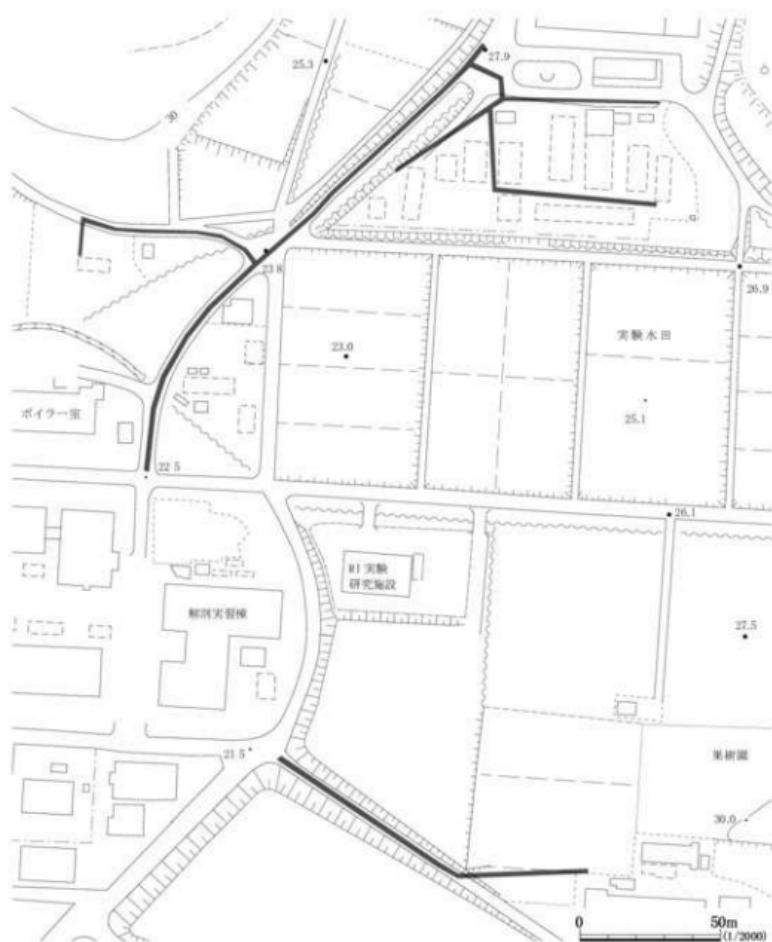


Fig.25 調査区位置図

遺物

1は須恵器坏蓋。径2.1cmの扁平なボタン状のつまみが付く。2は須恵器高台付坏である。
断面方形の低い高台が付く。

小結

検出した遺物包含層は、ほぼ上面検出にとど
まったため、詳細は不明であるが、総合研究棟敷
地・解剖実習棟敷地・農学部附属動物医療セン
ター改修Ⅲ期第2調査区で検出した埋没谷の一
部と考えられる。以上の状況から、調査区周辺で
は古代の遺構・遺物が残存していることが考
えられるため、今後の掘削工事にあたっては、埋蔵文化財の保護に特に注意が必要である。

[注]

- 1) 本書第2章参照
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」(『山口大学構内遺
跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年)
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」(『山口大
学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』、2012年)

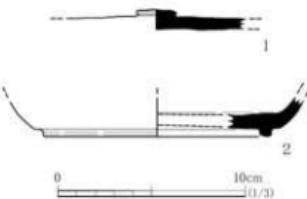


Fig.26 土出土遺物実測図

3 九田川河川局部改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-11・12、I-10・11、J-9・10、K・L-9

調査期間 平成12年5月11、8月3・4・18・23・25、9月4・18、10月23、11月30、12月12・1月12、2月5、3月27日

調査面積 約616m²

調査結果 平成12年度分の工事として、正門西側で長さ約38m、正門東側で約150mに渡つて、現地表下約5.5～6.0mまで掘削が行われた。また、構内道路の擁壁部分約26mでは、現地表下約80cmまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約1～2mまでが造成土で、以下で地山及び河川堆積土が検出された。また、調査区の一部ではこれまでの調査で地山の一部と考えられている黒褐色粘土も検出された。しかし明確な遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。ただし、調査区内は攪乱が著しい箇所もみられたため、本来は遺構・遺物が存在した可能性は否定できない。九田川の南側に位置する実験水田では、大学会館～就職支援施設で検出された谷の延長部分が存在すると考えられるため、今後の掘削工事にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分な注意が必要である。



Fig.27 調査区位置図

4 山口合同ガスガバナー室新設及びガス管改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-19~22, P-18・19・22

調査期間 平成12年8月2・3・22・23・28・29日

調査面積 約313m²

調査結果 吉田構内のガスを天然ガスに切り替えるため、(株)山口合同ガスによりガバナー室の新設及びガス管改修が計画された。山口市教育委員会より工事主体である(株)山口合同ガスに対して、埋蔵文化財資料館と連絡をとるよう指示があり、当館が立会調査を実施した。掘削工事はガバナー室新設箇所・フェンス・ガス管新設箇所で行われ、ガバナー室及びフェンスの掘削深度は最大で現地表下約100cmまで、ガス管新設の掘削深度は現地表下約80cmまでであった。

調査の結果、ガバナー室新設箇所では統合移転前の耕土・床土、地山を確認したが、ガス管新設箇所の大半は造成土で一部で地山を確認するにとどまった。いずれの調査区でも顕著な遺構・遺物は検出されなかつた。



Fig.28 調査区位置図

5 バリカー新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 N-22、V-17

調査期間 平成12年12月22日

調査面積 約0.4m²



Fig.29 調査区位置図

調査結果 工事は東門西側及び国際交流会館北西側に車止めのバリカーレを設置するため、基礎部分を25cm×25cmの範囲で現地表下約55cmまで掘り下げるものである。いずれも造成土を検出するにとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

6 あずまや新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-18

調査期間 平成13年3月2・5日

調査面積 約5m²



Fig.30 調査区位置図

調査結果 共通教育講義棟南側の空閑地にあずまやの新設工事が計画された。計画地は周辺の状況から造成土が厚いことが推測されたため、掘削深度が現地表下約100cmとなる支柱部分（平面形90cm×90cm）A～F地点の6箇所について、立会調査を実施した。

調査の結果、A地点では、現地表下約76cmまでが表土・造成土、約76～100cmがオリーブ灰色砂（2～3cmの礫を含む）であった。

B地点では、現地表下約66cmまでが表土・

造成土で、以下約66～112cmがオリーブ灰色砂（2～3cm大の礫を含む）であった。C地点では、現地表下約64cmまでが表土・造成土で、以下約64～102cmが青灰色シルトであった。D地点では、現地表下約66cmまでが表土・造成土で、以下約66～82cmが統合移転前水田耕土、約82～85cmが同水田床土、約85～112cmが緑灰色砂（2～3cm大の礫含む）であった。E地点では、現地表下100cm前後で緑灰色砂（2～3cm大の礫含む）を検出した。F地点では、現地表下約100cmまでが表土・造成土で、以下100～120cmが緑灰色砂（2～3cm大の礫を含む）であった。いずれの地点からも遺物は出土しなかった。

以上の結果、A・B地点で検出されたオリーブ灰色砂、D～F地点で検出された緑灰色砂は河川堆積土と推測される。また、C地点で検出された青灰色シルトは地山であろう。検出された河川は、調査区の北西側に位置する共通教育2号館（現メディア基盤センター棟）で検出された縄文時代の河川との関連が考えられる。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内教養部複合棟新宮に伴う発掘調査」『山口大学構内遺跡調査研究年報VII』、1988年

7 共通教育センター空調設備新設工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　J-16

調査期間　平成13年3月13日

調査面積　約1.4m²

調査結果　共通教育センター空調設備新設工事に伴う配管設置に伴い、立会調査を行った。掘削規模は幅約40cm、長さ約3.4m、深さ55cmであった。調査の結果、掘削した範囲はいずれも造成土の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。



Fig.31 調査区位置図

8 基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 J・K-21, M-10

調査期間 平成13年3月27・28日

調査面積 約 2 m²

調査結果 吉田構内で基幹環境整備の一環として、経済学部講義棟南側2箇所と吉田寮の南側1箇所に外灯が新設されることになり、A～Cの3地点で立会調査を行った。掘削規模は、平面形80cm×80cm、深さ約100cmである。調査の結果、A地点では現地表下50cm程度で地山、B地点では包含層を検出し、出土層位不明であるが、土師器片が出土した。C地点は造成土の範囲内であった。B地点の北側に位置する東アジア研究科・経済学研究科棟敷地では、自然河川、自然流路、溝が検出されていることから、B地点の包含層はこれらの延長部分である可能性が高い。また、上記の自然河川、自然流路、溝からは縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器などが出土していることから、今回調査区の南側にあたるハンドボール場には集落関連遺構が存在する可能性が考えられよう。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「経済学部東アジア研究科・経済学研究科棟新設工事に伴う予備発掘調査」
 (『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成 21 年度－』、2013 年)

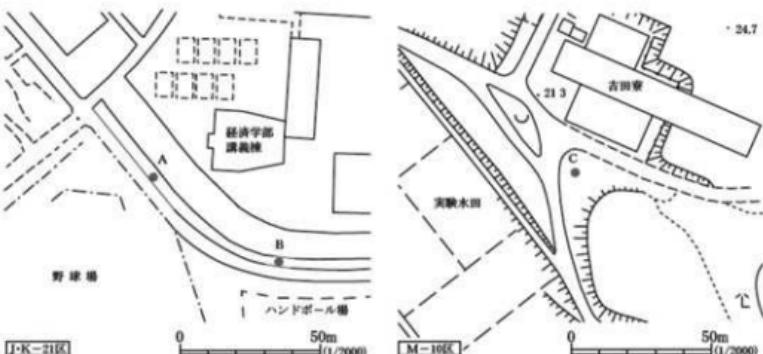


Fig.32 調査区位置図

第2節 白石構内の立会調査

1 教育学部附属山口中学校防球ネット新設工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内

調査期間 平成12年12月6日

調査面積 約4.4m²

調査結果 教育学部附属山口中学校で防球ネットを新設することとなり、立会調査を実施した。工事は、直径約45cmの円形の範囲を東側5箇所では現地表下約3.5m、西側4箇所では現地表下約3mまで掘削するものであった。調査範囲が狭小であったことから、断面の確認は困難であった。また、埋土を確認したところ遺物は含まれていなかった。

今回の調査区のうち、東側については、昭和61年度に調査された污水管布設に伴う試掘調査第7・第8トレンチで現地表下約40cm程度

で地山が検出されていることから、旧地形はやや高かったことが推測される。一方、西側では平成25年度に実施した武道場新設工事に伴う予備発掘調査の成果から北東-南西方向の谷が存在する可能性が高い。

【注】

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「亀山構内教育学部山口附属学校排水管布設に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』、1987年)



Fig.33 調査区位置図

第3節 光構内の立会調査

1 教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成12年7月4日

調査面積 約173m²

調査結果

層序・造構

平成11年9月の台風18号に伴う高潮により、教育学部附属光小・中学校の御手洗湾沿いに設置されている護岸が複数箇所で崩落したため、護岸の改修工事が実施されることになつ

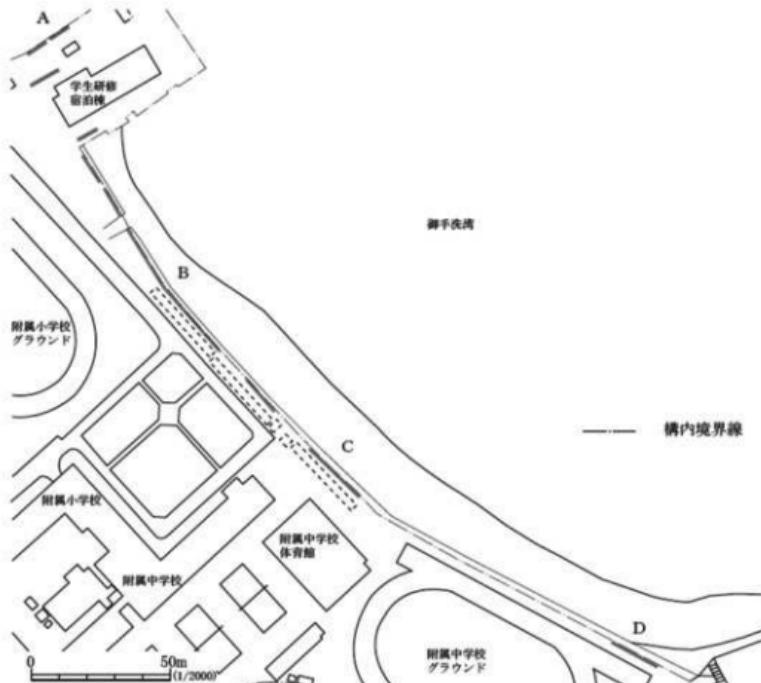


Fig.34 調査区位置図

た。工事では、既設の石垣を除去して、断面を露出させ、新たな石垣を設置することになり、施工時に立会調査を行った。調査の結果、A・D地点の断面は全て造成土であった。B・C地点の一部では、既設の石垣の内側に円礫を使用した石積が確認された。なお、記録類が行方不明のため、層序の詳細は不明である。

遺物 (Fig.35, PL.21 (2))

石垣の裏込土等から近世～近代の磁器、瓦片が出土した。1はB地点出土の鉢壺である。土師質で、復元口径10.5cm、器高28.8cm、底径12.6cmである。胴部に墨書が見られるが消えた部分があるため判読できない。底面には「宮」ともう1文字が書かれるが、消えているため判読できない。これらの墨書は持ち主もしくは地名であった可能性がある。¹⁾

小結

今回の調査で確認された石垣の詳細な時期は不明であるが、裏込土出土遺物から近世～近代と推測される。また、B地点の南側にあたる自転車置場敷地では、昭和58年度の試掘調査で割石積の石垣が検出されており、埋土から近世～近代の陶磁器類が出土している。以上から、少なくとも近代には御手洗溝沿いに石垣が存在し、その起源は室積会所が設置される近世後半に遡る可能性が高い。以上から、今後も沿岸部における埋蔵文化財の遺存状況と保護に十分な注意を払う必要がある。

[注]

- 1) 本学経済学部 木部和昭教授に実見していただき、ご教示を得た。
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光小学校自転車置場設置に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985年)

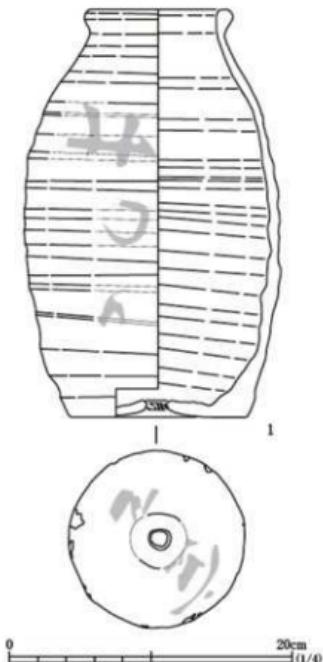


Fig.35 出土遺物実測図

2 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修2期工事に伴う立会 調査

調査地区 光構内

調査期間 平成12年8月10日

調査面積 約23m²



Fig.36 調査区位置図

調査結果

層序・遺構

平成11年度に実施した給水管改修1期工事に引き続き、A～C地点で給水管改修工事2期工事（既設管取替）が行われることになった。A～1地点（学生研修宿泊棟から南東約1.7m）では、現地表下約103cmまでが表土・造成土・給水管埋土で、以下103～165cmで灰白色粗砂を検出した。またA地点の中央部では現地表下約84cmで赤褐色土（近世もしくは近代の造成土か）を検出した。B地点は現地表下約20cmの掘削にとどまったため、全て造成土の範囲内であった。C地点では、現地表下約83cmまでが表土・造成土で以下83～140cmで淡黄色細砂を検出した。

遺物 (Fig.37, Pl.21 (3))

A地点の灰白色粗砂から土師器、須恵器片、越州窯青磁碗片、石錘が出土した。Iは越州窯青磁碗¹⁾である。胎土は精良で、釉は、灰オリーブ色・オリーブ灰色を呈する。底面と底部側面は回転ヘラケズリを施しており、一部を除いて露胎である。内底面と底部側面に目痕が6箇所ある。復元口径19.0cm、器高6.7cm、復元底径（側面より内側）8.2

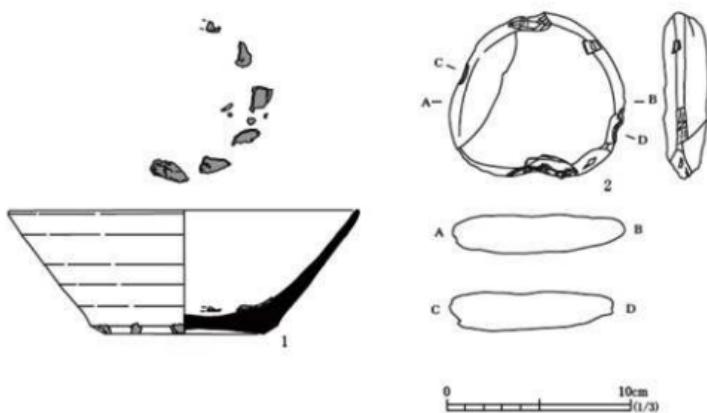


Fig.37 出土遺物実測図

cm。2は石錐である。石質は黒色片岩で、4箇所を打ち欠く。最大長9.4cm、最大幅8.8cm、最大厚2.1cm、重量272.7g。

小結

A地点で検出された灰白色粗砂は平成24年度に実施した下水道接続工事に伴う立会調査の所見から、近世～近代に形成された層と考えられる。学生研修宿泊棟の南西側は会所関連施設の推定地であり、上記調査と給水管改修1期工事に伴う立会調査²⁾、近世の埋甕を検出している。出土した越州窯青磁碗は9世紀を中心とする時期が考えられるが、御手洗遺跡では当該期の遺構・遺物がきわめて少なく、貴重な事例となった。

〔注〕

- (財) 北九州市芸術文化振興財團埋蔵文化財調査室 佐藤浩司氏に実見していただき、ご教示を得た。
- 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 山口大学埋蔵文化財資料館「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」(『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年)

吉田遺跡第Ⅰ地区B区の未報告図面について

田畠 直彦

1はじめに

当館は平成4年度に、吉田構内への統合移転時に発掘調査が行われた吉田遺跡第Ⅰ地区B区の報告を行った。¹⁾その際、遺構図に関しては断面図は存在したもの、平面図が全て行方不明であったため、断面図は基本層序の提示にとどめ、遺物中心の報告を行わざるを得なかった。その後、平成9年4月に至り、教育学部地理学準備室から統合移転時の発掘調査の記録類が新たに発見され、この中に吉田遺跡第Ⅰ地区B区の平面図等が含まれていた。この発見により、第Ⅰ地区B区の調査区とおおよその位置が明らかになった。以上の新たな発見を受け、以下では、これらの図面について追加報告を行いたい。



Fig.38 第Ⅰ地区B区位置図

平面図

2 平面図

原図は縮尺1/100の平板図である。図の下に「第I遺跡第2次緊急調査第1区～第4区」平川吉田遺跡第I地区道路建設予定地 S41 11 20と記載されている。『山口大学構内吉田遺跡調査概報』(ガリ版刷り)によれば、第I地区B区の調査期間は昭和41年10月15日から同月30日までとされるが、出土遺物の注記には昭和41年11月14日から24日までのものがあるため、実際には昭和41年11月に調査されたと考えられる。調査区は一部未記載であるが、各遺構にはP1～P19、1～32の名称が付されているほか、「住居址」1基がある。遺構については縮尺1/10の平面図も作成されている。Fig.40は1/10の平面図との合成図をトレースしたものである。この図と年報X IのPL.41記載写真を比較すると、調査区の形状、遺構の名称・位置が概ね一致することから、上記の図は第I地区B区の図面と断定できる。

縮尺1/100の平板図には「教養部校舎」の一部が記載されているが、この校舎は現在の共通教育本館棟北東隅と考えられる。同平板図には方位も記載されているが、図を建物方向に合わせると、調査区は総合図書館敷地に位置することとなる。同平板図に記載されている「道路建設予定地」を参考に、同平板図記載の方位を合わせたものがFig.39である。調査区

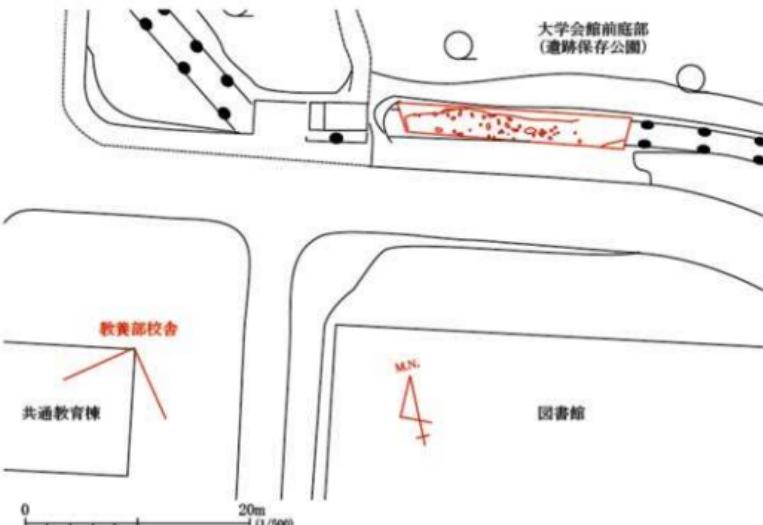


Fig.39 第I地区B区詳細位置図

は構内道路の北側の水路部分に位置することになるが、年報XⅠのPL.41をみると、調査区にはほぼ平行するように崖面がみられることから、調査区の位置は概ね上記の位置と断定できる。

3 断面図

現在、埋蔵文化財資料館では調査区北壁断面図及び、調査区内東壁の断面図を保管している。今回は、調査区北壁断面図と東壁（a-b、c-d間）について報告する。

基本層序については、以下のように整理した。層名は北壁記載のものである。なお、断面図には標高の記載がないため、詳細は不明である。

第Ⅰ層：造成土もしくは耕土か 層厚約1～29cm、第Ⅱ層：褐色土 弥生土器、土師器、須恵器を含む（包含層Ⅰ）層厚約13～59cm、第Ⅲ層：暗褐色粘質土 弥生土器を包含する（包含層Ⅱ）層厚約3～37cm、第Ⅳ層：地山。

第Ⅰ層については図に記載はないが、調査時に包含層が露出していたとされる状況から造成土もしくは耕土と考えられる。第Ⅱ層は第Ⅰ地区A区の第Ⅱ層、第Ⅲ層は同区第Ⅲ層、第Ⅳ層は同区第V層に相当する。なお、第Ⅳ層について層名の記載はなかった。

包含層は北から南へ緩やかに傾斜して堆積する。第Ⅲ層は調査区西端から約2.7mの地点から東側に堆積し、その東側には遺構理土の可能性がある落ち込みがみられる。上記を除く遺構の多くは北壁断面図を見る限り、第V層を遺構面としていたようである。大学会館環境整備に伴う試掘調査⁴⁾では、地山面が北から南へ傾斜しており、調査区南部では包含層の堆積が確認されていることから、第Ⅰ地区B区は同A区同様、丘陵裾部に立地していたと考えられる。

4 遺構

P1～P19、1～32、「住居址」1基が検出された。1～32のうち、遺構の平面形・大きさから、20は土壤であり、他は柱穴とみられる。「住居址」には弥生土器片の出土位置が書き込まれているが、該当する遺物は確認できない。また、他に「住居址」に関する記載がないため、この遺構が竪穴住居跡であったかどうかを含め、詳細は不明である。遺構のうち、最も多く検出されたのは柱穴である。北壁断面を見ると、深さは最も浅いP14が約3cm、最も深いP10が約26cmで、他は10～20cm前後である。前述のように、これらの柱穴は地山を遺構面としているようであるが、大学会館環境整備に伴う試掘調査⁵⁾では包含層から掘り込まれた柱

平面図・断面図

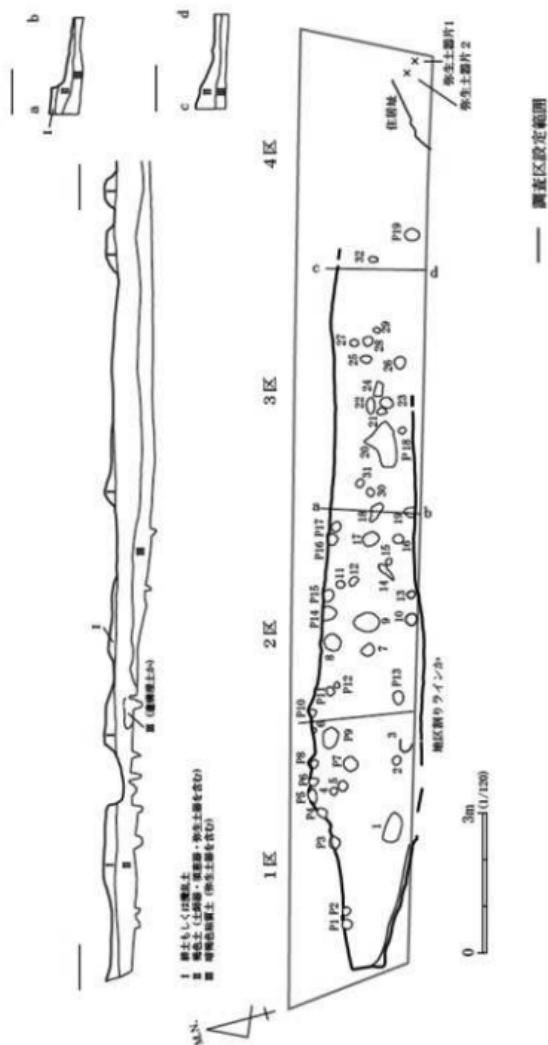


Fig. 40 第I地区6区平面図・断面図

穴も確認されていることから、複数時期の柱穴が存在した可能性がある。なお、年報XⅠのFig.77-61（古墳時代前期甕底部）は「S 41.11.24 吉田 第ⅠB・2[区]N.18の中」との注記があることから、2区18から出土した土器と断定でき、この柱穴は当該期のものであつた可能性がある。また、報告されている遺物は弥生時代～古墳時代中期のものが多く、古代以降の遺物が僅少であるため、当該期の遺構が主体であった可能性が高い。

5 おわりに

以上、第Ⅰ地区B区の未報告図面について報告を行った。第Ⅰ地区B区では柱穴を主体とする遺構が多数検出された。詳細は不明な点が多いが、報告された遺物から推測すると、これらの遺構は弥生時代～古墳時代中期を主体としていた可能性が高い。標高等に不明な点が多いため、第Ⅰ地区A区同様、今後、調査区周辺の調査による検証が待たれる。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田遺跡第Ⅰ地区B区の調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅠ』、1993年）
- 2) 縮尺1/100平板図と縮尺1/10平面図とは遺構の形状、位置が完全には一致しないが、遺構については縮尺1/10平面図をトレースし、調査区については縮尺1/100平板図をトレースした。ただし、遺構14・15については、写真との対応関係から、縮尺1/100平板図が正しいと考えられるので、この箇所のみ縮尺1/100平板図をトレースした。
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「付篇 吉田遺跡第Ⅰ地区A区の未報告図面について」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XXⅠ』、2016年）
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内大学会館環境整備に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報V』、1986年）
- 5) 前掲注3) 文献では第Ⅰ地区A区を谷の肩部に立地するとしたが、旧地形に不明確な点があるため、丘陵裾部に訂正する。
- 6) 前掲注4) 文献

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則

(設置)

第1条 山口大学に山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）を置く。

(資料館の業務)

第2条 資料館は、学内の共同利用施設として、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 山口大学構内等から出土した埋蔵文化財の収藏・展示及び調査研究
- 二 山口大学構内等における埋蔵文化財の発掘調査並びに報告書の刊行
- 三 その他の埋蔵文化財に関する必要な業務

(運営委員会)

第3条 資料館に関する事項を審議するため、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する規則は、別に定める。

(館長)

第4条 資料館に館長を置く。館長は委員会の議を経て学長が委嘱する。

- 2 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 館長は、資料館の業務を掌理する。

第5条 資料館には調査員若干名を置く。

- 2 調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。
- 3 調査員は、資料館の業務を処理する。

(特別調査員)

第6条 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

2 特別調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、資料館に必要な事項は別に定める。

山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学埋蔵文化財資料館規則（昭和53年規則第39号。以下「資料館規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）に関する基本的なこと。
- (2) 資料館の管理運営に関すること。
- (3) 資料館の整備充実に関すること。
- (4) 資料館の運営に要する経費に関すること。
- (5) その他必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 資料館規則第4条第1項の館長
 - (2) 各学部の教官各1名
 - (3) 事務局長
- 2 前項第2号の委員は、それぞれの部局の推薦に基づいて学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、総務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に關し必要な事項は、委員会が定める。

Tab.4 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員
(平成12年度)

部局名	氏名	官職	任期	備考
人文学部	橋本義則	教授	平11.4.1～平13.3.31	
教育学部	森下徹	助教授	平12.4.1～平13.3.31	
経済学部	木部和昭	助教授	平11.4.1～平13.3.31	
理学部	加納隆	教授	平11.7.16～平13.7.15	資料館長
理学部	福地龍郎	講師	平11.4.1～平13.3.31	委員長
医学部	大林雅之	教授	平12.4.1～平13.3.31	
工学部	中園眞人	教授	平11.4.1～平13.3.31	
農学部	高橋肇	助教授	平12.4.1～平13.3.31	
事務局	鎌田賢	事務局長	平12.4.1～平14.3.31	

山口大学構内の主な調査

Tab.5 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年 代 昭和 41年	調査名	構内地点	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 41年	第I地区A・B区	L~N-15	1	30?	土壙・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠雄	年報 11(11)
	第II地区家畜糞坑新宮	R-20~21 S-T-19~20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	*	*	年報 3
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試験	*	
	第IV地区牛舎新宮	S-T-10~11	4	300	弥生溝・土壙、古墳壁穴住居、中世住居・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	*	
	第IV地区		5				試験	*	
昭和 42年	第III地区杭町区 おひび陸上競技場	D-19~20 E-17~19~21 F-17~18	6	1,600	杭列、弥生壁穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、尖板状木机	事前	*	
昭和 43年	第III地区南区	G-21~23 H-22	7		河川跡、柱穴	圓文土器、弥生土器、木器、石器	*	*	
	第III地区北区	H-20 I-19~21 J-20~21	8	1,400	壁穴住居・溝、土壙、柱穴		*	*	
	第III地区東南区	G-23 H-23~24 I-J-24 K-23~24 L-23	9		弥生壁穴住居	弥生土器	*	*	
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試験	*	
	第V地区学生金家	J-20	11		弥生溝、古墳土壤	弥生土器、土師器	事前	*	
昭和 44年	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壙	弥生土器、土師器	試験	調査担当 山口大学吉田 造詣調査団	
	第I地区C1K 大学本部新宮	K-L-14	13	600	壁穴住居・溝、土壙	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	*	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試験	*	
	第I地区DK第1地点	L-13	14		近世大廻	弥生土器、木炭屑	*	*	
	第I地区DK第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	*	*	
昭和 46年	第I地区DK第3地点	M-13~14	16		土壙、柱穴	弥生土器、瓦質土器	*	*	
	第I地区DK第4地点	M-N-14	17		土壙、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	*	*	
	第I地区DK第5地点	L-12~13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	*	*	
	第I地区DK第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	*	*	
	第I地区DK第7地点	M-N-13	20			須恵器	*	*	
昭和 50年	第I地区EIK 第2学生食堂新宮	M-N-T4~15 O-15	21	900	古墳壁穴住居・溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	*	年報 XII
	第II地区					弥生土器	試験	*	
昭和 51年	第III地区				壁穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	*	*	
昭和 53年	人文学部校舎新宮	M-N-21	22	160			*	調査担当 近藤泰一	年報 X

調査年度	調査名	構内地点	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 54年	教育学部附属農業遺跡新宮	A~20~21 B~19~20 C~19	23	410	溝、土塁	縄文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会	年報 IX
	理学部校舎新宮	N~O~19~20	24	250			#		年報 X
	農学部動物舍新宮	P~19	25	380			#		
	本部管理棟新宮	L~14	26	740	溝、土壤、柱穴、中世井戸、土壘、住居跡	弥生土器、土師器、石製品	事前		年報 VIII
昭和 55年	経済学部校舎新宮	K~21	27	66			試掘		
	農学部農業施設実験施設新宮	P~Q~15	28	50	溝、土壤		事前		
	本部環境整備	E~14~16 F~15~16	29				立会		年報 X
	農学部環境整備	N~11 O~10~11 P~9~10	30				#		
昭和 56年	教育学部校舎新宮	H~19	31		弥生型穴住居 土壤、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		
	教育学部音楽練習室新宮	H~16	32		溝		#		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新宮	J~K~19~20	33		四河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	#		
	三門橋跡新宮	I~11	34				立会		
	時計塔埋設	I~14	35				#		
	本構内掘削取設	K~L~13~14	36				#		
	教育部構内排水取設	I~15~17 J~17	37				# 工法等変更		
	構内樹木道路植栽	J~M~15 M~N~16	38				#		
	農学部中庭整備	N~O~17	39				#		
	職務施設改修	O~16	40				# 工法等変更		
昭和 57年	学生部文化公室庫新宮	M~N~9	41				# 工法等変更		
	学生部馬場整備	M~N~8~9	42				#		
	附属図書館附属施設	L~M~16	43	600	弥生~古墳、土壤、柱穴、杭跡	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		
	大学会館新宮	M~N~14~15	44	130	弥生型穴住居、廐	弥生土器	試掘		
	教育学部附属農業学校プール新宮	A~B~21	45	880			立会		
昭和 58年	放射性同位元素結合実験室 接木桿新宮	O~18	46	2			#		
	教養部自動車整備 県跡新宮	L~17	47	10			#		
	教養部中庭環境整備	J~K~16	48	150			#		
	大学会館新宮	M~N~12~13	49	2,000	古墳井戸、土壤、柱穴、中世井戸、組立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輪入陶磁器、国产陶器、瓦質土器、绿釉陶器、木簡、石器	事前		年報 II
	ラグビー場防球ネット新宮	G~18~19 H~19~20	50	114	弥生廐、弥生~古墳 整穴住居、土壤	弥生土器、土師器、石製品	# 駆穴住居は工法変更により現地保存		年報 III
昭和 59年	理学部大学校舎新宮	M~N~20	51	409			立会		
	正門・西門二輪車置場 および正門改修新宮	I~J~12~13 H~23	52	183			#		
	学生部アーチスリーブ の台・電柱設置	N~S~9	53	33			#		
	学生部総合整備	M~7~8	54	16			#		

調査年度	調査名	構内地点	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	学生部野球場敷水栓設置	I-21 K-22	55	1			立会		年報III
	教養部環境整備	I-15~16 J-15 K-17~18 L-18	56	81			#		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15~16 F-16	57	12			#		
昭和59年	大学会館ケーブル布設	N-12	58	160	弥生土器、柱穴	弥生土器	事前		年報IV
	大学会館排水管布設	J-L-13	59	180	弥生~中世遺物包含層、古墳土壇、古代~中世土壇、塼、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	#		
	学生部テニスコート フェンス改修	B-17 C-16~17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試験		
	経済学部新木移植	K-19~21	61	8			立会		
昭和60年	大学会館環境整備	L-14~15 M-N-15	62	592	弥生~中世遺物包含層、弥生堅穴住居、古代~近世土壇、塼、柱穴	調査土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、固産陶器、土製品、石斧、原石、鉄器、漆器	試験		年報V
	経済学部環境整備(新木移植)	K-L-20	63	5			立会		
	農学部附属農業技術 園圃水灌修理整備	R-17~19	64	36	古代末~中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶器、輪口、石器、銅洋	#		
	農学部附属農業技術改修	V-15~17	65	325			#		
	教育学部南庭環境整備 (新木移植)	I-J-19	66	430			#		
	中央ボイワード車止設置	O-P-16	67	2.5		須恵器	#		
	大学会館環境整備 (新木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石器、瓦石、銅洋	#		
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農芸植物実習棲泊場改修 (実験動物飼育施設改修)	Q-18	70	16			#		
昭和61年	理学部環境整備(草棚設置)	N-21	71	4			#		年報VI
	農学部附属家畜病院解体	S-T-19	72	270			#		
	国際交流会館新設	M-22~23 N-22	73	70	弥生~古墳河川跡 中世~近世塼	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵器、土師器、瓦質土器、陶器、鐵鋸玉、加工版のあら削片	試験		
	山口銀行営業自動支店施設設置 (電線配線設置)	J-19	74	11	包含層(河川跡)	弥生土器	立会		
	農学部附属農業技術改修	S-20 T-U-19	75	165	中世塼、柱穴	土師器、瓦質土器	# 工法変更		
	農学部附属農業技術改修 (廻転ボール設置)	M-18 P-15 Q-15~17	76	12			#		
	正門棧(水路内)境界 杭設置	J-10	77	0.25	包含層#		#		
昭和62年	経済学部環境整備 (新木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		年報VII

調査年 度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 61年	吉田構内交通機器設置	G~23 K~9 O~22 S~20 V~17	79	3		須恵器	立会		
	市道神郷1号線および、 開田神郷線の排水管設設	B~17~18 C~18~19 D~19~20 E~20~21 F~21~22 G~22~23 H~23~24 I~J~K~24 L~23~24 M~N~23 O~22~23 P~Q~22 R~21~22 S~21 T~20~21 U~19~20 V~18~19 W~X~18	80	2,100	古墳・弥生層、古代 河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、 須恵器(墨書きのある もの含む)、石質土器、 製塙土器、石斧、板石	立会	山口市 教育委員会 山口大学埋蔵文化 財資料館	年報 71
	教育部自動車施設設 (原宿設置および駕駁所移動)	K~L~18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用 スロープ取設	L~15~16	81	3			#		
	経済学部敷水線取設	L~20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール・ 改修等	E~15 F~15~16 H~15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附風農場 水道管理設	S~12	85	3			#		
	吉田構内污水排水管等 改修	M~18 O~15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ 取設	L~14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用 スロープ取設	K~18~20 L~18	88	78			#	工法等変更	
	附属図書館荷物搬送用 スロープ取設	L~16	89	8		弥生土器	#		
	教養部37番教室改修	K~16	90	1			#		
昭和 62年	教育学部附属教育実践 研究指導センター新宮	J~K~18~19	91	240		ブランク、刑器、 植物遺体	事前		
	教養部複合棟新宮	J~K~17	92	35	埋甕土壤、漢、柱穴	土師器、須恵器、 土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新宮	I~J~16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		
	教養部複合棟新宮	J~K~17~18	94	900	落し穴、河川跡、 整穴住居、土塙、床、 扉戸、埋甕土壤、柱立柱壁跡、 谷底遺構、柱穴	調文土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 須恵質土器、陶磁器 石器、石斧、木製品	事前		年報 72
	久田川局部改修	B~16~17 C~16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化 財資料館	
	国際交流会館新宮	M~N~22~23	96	195			#		
	教育学部附属養護学校・ 自動車運転移設	B~20	97	1			#		
	農学部附風農場E7園場 排水管設置及び E6園場進入路改修	L~N~12	98	55	中世土壤堆积	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入白磁 因縫磁器、藏石	#		
	農学部施設	N~17	99	3			#		
	経済学部集水系取設	J~20	100	0.5			#		

調査 年度	調 査 名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺 構	遺 物	調査 区分	考 察	文献
昭和 63年	教養部複合施設に伴う 自転車駐場移設	I-16	101	1	包含層		立会		年報 Ⅷ
	国際交流会館新宮に伴う排 水管設置	N-O-22	102	35	河川跡(濁か)、 包含層	弥生土器、須恵器	#		
	教養部複合施設に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#		
	サッカーラグビー場改修	F-19・21 G-38	104	25	性格不明	弥生土器	#		
	消防用水設置	K-M-22	105	7.5			#		
平成 元年	水銀灯新宮	J-L-15	106	4	古墳横状造構 柱穴	弥生土器、土師器、 須恵器、六邊式製塙土 器	事前		年報 IX
	種野寮ボイラ設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新宮	H-22 I-21・22 J-K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、須 恵器、瓦質土器、陶器	#		
	防火水槽配管新設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラ設備改修	M-8	110	4			#		
	体育施設系水管改修	G-H-16	111	50		陶器	#	工法等変更	
	大学会館南記念植樹	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラ機 地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、須恵器、土師 質土器、陶器、劍片、 二次加工のかる劍片	#		
	第2武道場排水渠新宮	G-15	114	2	渠		#		
	室内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			#		
	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		
	大学会館南庭廣場整備	N-14・15	117	35	中世墓		#		
	大学会館南庭廣場整備	M-15	118	2			#		年報 X
	原1学生食堂改修	I-J-19	119	7			#		
	教育学部附属農場学校 室内板設置	E-20	120	1			#		
平成 3年	農学部連合紙医学科樓新宮	O-P-17	121	76	調文河川	調文土器、石器	試掘		年報 XI
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部獣生生物実験室その他 宿舎待機棟設備改修	P-17	123	8			#		
	大学会館南庭記念植樹	L-M-15	124	2			#		
	サークル棲新宮	F-14	125	1			#		
平成 4年	農学部連合紙医学科樓新宮	O-P-17	126	980	調文河川	調文土器、石器	事前		年報 XII
	交通規制標識及び バリアー設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路 (南門ロードリー)取設	H-23	128	40			#		
	ボイラ・空気管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農学部附属農場 グラス屋新宮	S-14	130	3.5			#		
	大学会館南庭記念植樹	L-M-15	131	3			#		
	駒町平川縦緊急地方道路整 備工事及び山口大学吉田団地 開渠整備(正面周辺)	E-11・12	132				#		
	駒町平川縦緊急地方道路整 備(信号機設置)	I-11	133	7			#		

調査年 度	調査名	構内地点	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 5年	本部裏給水管理設 人文部・理学部 講義棟新宮	K~M-13	134	70	廣、柱穴	弥生土器、土師器 滑石製造品	事前		
	M-19	135	4				試掘		
	G-H-16	136	144	廣		弥生土器、須恵器 琥珀	#		
	N-P-18	137	9				#		
	L-15 M-17~18	138	16				立会		
	O-16	139	4				#		
	N-14	140	1				#		
	L-15	141	1.6				#		
	C-16 D-15~16	142	40				#		
	V-17	143	0.2				#		
	S-14	144	10				#		
	H-J-19	145	15				#		
	L-14 M-13~15 N-14~15	146	140.9				#		
	H-20 I-19~21 J-20~21	147	361				#		
	G-13 H-12	148	350				#		
平成 6年	E-20 F-21 G-18~22 H-19~20 I-21	149	600	圓文河川、弥生住居、 廣、土坑、弥生～古 墳河川、近世溝	圓文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、琥珀、 磨石、鐵石	事前	工法等変更		
	G-I-15~16	150	726	弥生～古代溝、貯藏 穴、土坑、近世溝、 土坑	弥生土器、土師器、須 恵器、琥珀、磨石、鐵石、 銅片、須恵器、瓦質土 器、土師質土器、陶器、 磁器、瓦、下駄	#			
	F-21 G-20~21 H-19~20	151	200	圓文河川、弥生住居、 廣、土坑、弥生～古 墳河川、近世溝	圓文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、琥珀、 磨石、鐵石	#	工法等変更		
	K-L-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘			
	H-12~13	153	2	河川		#			
	G-H-17	154	60	河川		#	工法等変更		
	L-22 M-22~23	155	5				立会		
	K-23 L-22~23	156	6				#		
	F-19	157	2				#		
	B-17 C-16~18 D-15~17 E-15~16	158	15				#		
	B-20~22 C-20	159	16				#		
	C-18 D-18~19	160	200				#		
	ハンドボール場改修 (プレハブ設置)	161	30				#		

年報
XIII年報
XIV

調査年度	調査名	構内地図別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	野球場フェンス改修	H-22 F-21-22	162	3			立会		
	瓦幹環境整備 (ボイー電配電盤設置)	O-16	163	4	河川沿い		#		
	丸田川河川局部改良	D-15 E-14-15	164	100			#		
	第2埠内運動場電柱取扱	G-14-15	165	0.5			#		
	教養部水道管破壊修理	I-16	166	2			#		
	グランド屋外照明施設配線 埋設	E-20 F-20-21 G-18-19-22 H-19-20 I-20-21	167	150			#		年報 XIV
	公共下水道接続 (教育学部附属幼稚園学校 ブルーバル排水施設設置)	A-21	168	4			#		
	サークル便器水管埋設	F-14	169	1			#		
	ブルーバル新嘗桔水管埋設	E-15 F-15-16	170	10			#		
	公共下水道接続 (汚水管と雨水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	#		
平成7年	教育学部スクープ設置 (音楽棟)	H-17	172	10			#		
	農学部RI実験研究施設新築	Q-R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部RI実験研究施設新宮	Q-R-17	174	520	中世井戸、近世溝	石井、磁器、磁器、 瓦器	事前		
	公共下水道接続	C-18 E-16 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、 柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道接続	C-D-18 D-E-17 E-F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角 器	事前		
	農学部附属農業牛舎新築	T-10	177	22			試掘		
	独身宿舎改修	N-O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N-O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2埠内運動場各周回明施 設新設	G-15-16	180				立会		
	機器分析センター新営工事 用電柱取扱	O-19-21 P-22	181				#		
平成8年	農学部附属獣医学病院・切 カバー新設	S-20	182				#		
	吉田寮可燃ごみ置場新設	N-10	183				#		
	農学部RI実験研究施設電 気・情報ケーブル及びガス・ 給排水管埋設	Q-R-17	184				#		
	情報処理センタースクープ 新設	O-19	185				#		
	瓦幹環境整備(ATMネット ワークケーブル削設)	E-19-20 F-18-19 G-18	186				#		
	瓦幹環境整備(外灯新設)	I-15-16 J-20 K-19 M-10-11 N-12 O-16-19-20 P-18-19 Q-17-18	187				#		
	瓦幹環境整備(独身宿舎・国 際交流会館排水管埋設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI

調査年度	調査名	構内地点	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成8年	玉幹環境整備(外灯新設)	H-1-21・22	189	306	河川	調文土器、伴生土器、土師器、石器	試掘		年報XXI
	農学部附属農場排水管取替	S-10-11	190	93	包含層、壁	土師器、須恵器	試掘		
	壁上競技場供排水改修	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水渠改修	R-11	192	2.2			#		
	樺野寮バリア新設	O-20-21	193	.7			#		
	サッカーフィールド排水管取替	H-19-20 I-19	194	12	包含層		#		
	玉幹環境整備(共通教育センター・スロープ・テラス新設)	J-K-17	195	14.3	河川	調文土器、須恵器	#		
	九田川河川局地改良	E-14	196	18			#		
	農学部附属農場道路舗装	K-12-13 L-12 M-11	197	27.6	云母用水路、溝状造 築	伴生土器、土師器、須恵器、陶器、石器	#		
	本館裏排水管取替	K-14	198	2			#		
平成9年	農学部附属農場排水渠改修	S-T-19	199	1			#		年報XXII
	農学部附属農場肥料貯蔵販賣新設	S-10	200	41.5			試掘		
	農学部ハイオク窓附施設新設	Q-15-16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製陶 土器、石器	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
	玉幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含層		#		
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			#		
	九田川河川局地改良	E-14	205	48			#		
	本館2号館西側バリア新設	L-13	206	0.5			#		
	教育学部附属農場学校時計塔新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	#		
	玉幹環境整備(教育学部附属農場学校時計塔新設)	C-D-21	208	17	河川		#		
平成10年	玉幹環境整備(他却場裏表土さとり)	O-16	209	40			#		年報XXIII
	第2学生食堂増築及び改修	N-O-15	210	730	獨立柱建物、溝、土 坑、柱穴	伴生土器、土師器、須 恵器、陶器、石器、石磚、 絆製品	事向		
	教育学部附属農場学校給食室改修	C-21	211	9	調査河川、土坑、柱 穴	調文土器、伴生土器	試掘		
	九田川河川局地改良	E-F-14 F-13	212				立会		
	玉幹環境整備(バリア新設)	H-15 I-J-20 O-16-18	213				#		
	農学部動物用飼育炉改修	Q-18	214				#		
	玉幹環境整備(外灯新設)	I-17-19 M-N-18	215				#		
	理学部スロープ新設	M-18	216				#		
	ステンレス回転モニュメント新設	M-13	217				#		
	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備	O-14-16	218		包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	#		
平成11年	九田川河川局地改良	F-G-13 G-H-12	219				#		年報XXIV
	第2学生食堂北西擴張新設	N-14	220				#		
	サッカーフィールド防球ネット新設	G-H-22	221				#		

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成11年	第1体育館・共通教育本館 スロープ新設	H-15 K-16	222				#		
	黒鉛埋設整備(外灯新設)	I-12 K-L-18 L-15 M-N-17	223				#		
平成12年	総合研究棟新設	Q-18 R-17-19	224	270	埋没谷	土師器、瓦窓器	試掘		
	総合研究棟新設	Q-R-18 R-19 S-20	225	808	埋没谷、土壤	礎文土器、土師器、瓦窓器、製埴土器、瓦質土器、石器	事前立会		
	廻舎及び周辺施設改修	M-8	226	3.6			立会		
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15-16 Q-14-15-16-19 R-13-14 R-S-19 S-14	227	268	包含層	土師器、瓦窓器	#		
平成13年	久田川河川局部改良	H-11-12 I-10-11 J-0-10 K-L-9	228	618			#		
	山口各開方八ヶバナー整新設 及びガス配管布設	O-19-22 P-18-19-22	229	313			#		
	黒鉛埋設整備 (リリカー新設)	N-22 V-17	230	0.4			#		
	あい生や新設	L-18	231	5			#		
	共通教育センター空調設備 新設	J-16	232	1.4			#		
	黒鉛埋設整備(外灯新設)	J-K-21 M-10	233	2	包含層	土師器	#		
	経済学部校舎改修 (ブレハバ校舎新設)	K-21	234	40	河川	礎文土器、土師器、瓦窓器	試掘		
平成14年	久田川河川局部改良 (平成12年度工事追加分)	L-8-9	235	42	河川		立会		
	総合研究棟新設外配管布設	Q-18	236	60			#		
	理学部改修1期工事 屋外配管布設	M-18-19 M-N-20 N-19	237	76			#		
	久田川河川局部改良	L-8-9	238	96			#		
	黒鉛埋設整備(外灯新設)	I-14-15 J-15 K-L-M-15 N-16 Q-T-V-17	239	15.4	河川		#		
	理学部校舎改修2期工事 ダブル配管布設	M-19	240	11			#		
	理学部校舎改修2期工事 自動車庫新設	N-20	241	196			#		
	第1学生食堂トレー改修	I-J-19	242	6			#		
	経済学部校舎改修(ブレハバ 校舎新設配管布設)	L-21	243	6			#		
	農学部校舎改修(解剖実習 棟ブレハバ校舎新設)	R-S-19	244	520	掘立柱建物、柱穴、 土坑、包含層、河川	土師器、瓦窓器(裏面 土器)、製埴土器、砂輪 陶器、瓦、轆轤、鉢底、 陶瓶	事前立会		
平成15年	農学部校舎改修	O-14	245				立会		
	農学部校舎改修	N-Q-17-18	246		河川	礎文土器	#		
	理学部改修3期工事(薬品庫 開示板・自動車庫新設)	N-19- M-19-20	247				#		

年報
XX年報
XXI

調査年	調査名	県内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 14年	東アジア研究科プレハブ校 舎新宮	N-21	248				#		
	医学部校舎改修(解剖実習 棟プレハブ校舎新宮)	R-S-19	249		河川、包含層		#		
	教育部トイレ改修	I-18	250				#		

小串構内

調査年	調査名	県内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 49年	医学部体育馆新宮		1	260		土師器、瓦質土器、 石器	試掘		年報 III
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育馆新宮		3	1			#		
昭和 59年	医学部淨化槽新宮		4	44	近世廐	土師器、瓦質土器、 磁器	事商		年報 IV
	医学部体育馆新宮		5	65		土師器、瓦質土器、 磁器	#		
	医学部系幹敷備 (特高受電設備)		6	28		動物遺体(貝類)	試掘		
	医学部臨床講義棟 病理解剖棟新宮		7	38			#		
昭和 60年	医学部附属病院 外来診療棟新宮		8	390		土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	#		年報 V
	医学部系講研究棟新宮		9	10		近世陶器	#		
	医学部看護婦宿舍改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		
	医学部看護婦宿舍改修		11	20			#		
	医学部産業衛生室 (研木移転)		12	40			#		
昭和 61年	医学部附属病院 外来診療棟新宮		13	5			#		年報 VI
	医学部附属病院外來診療棟 窓櫛頭整備等(雨水井埋設)		14	18			#		
昭和 62年	医学部附属病院東駅車場改修		15	6			#		年報 VII
	医学部附属病院新宮		16	104		削器、ナイフ形石器 鉛石刀模	試掘		
昭和 63年	医学部附属病院病棟新宮		17	300		二次加工のあら削片、 使用瓶のあら削片、削 片、鐵石、鐵石、原石、 土師器、土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	立会		年報 VIII
	医学部附属病院運動場 改修		18	220			#		
	医学部附属病院MRI棟新宮		19	45		削器、鐵石刀、 二次加工のあら削片、 削片、石模	試掘		
平成 元年	医学部附属病院動物・ 研究実験棟新宮		20	40		削片	#		年報 IX
平成 2年	医学部附属病院電気工事		21	0.5			立会		年報 X
平成 3年	施却棟地盤調査		22				#		年報 XI
平成 4年	医学部附属病院実験施設新宮 その他		23	9			#		年報 XII
平成 5年	医学部附属病院基幹設備 (施却棟新宮)		24	6			#		年報 XIII

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	医学部附属病院MRI-CT装備施設		25	300			#		年報XIV
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新設		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報XV
平成9年	医学部懇意碑・納骨堂新設		28	15.2			試掘		
	瓦葺屋根敷設 (看護婦宿舎洋化槽撤去)		29	4			立会		年報XVI
	医学部附属棧橋設置		30	10			#		
平成10年	宇都宮市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸内線)		31	134	包含層、近世～近代 用水路	削片、弥生土器、 土師器、陶器、磁器	事前 宇都宮市教育委員会と共同調査		
	宇都宮市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸内線・医学部教 地西側特殊地)		32	379	包含層、近世～近代 用水路	削片、調文土器、弥生 土器、土師器、陶器、 磁器	# 宇都宮市教育委員会と共同調査		
平成11年	宇都宮市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸内線)		33	702	近世～近代用水路、 土坑	陶器、磁器、鉄製品	# 宇都宮市教育委員会と共同調査		
平成13年	医学部附属病院立体駐車場 新設		34	229	包含層	調文土器、弥生土器、土 師器、陶器、磁器、鐵釘	試掘		年報XVII
平成14年	医学部附属病院高エネルギー 核新設		35	13.25			#		
	総合研究棟新設		36	382	包含層	調文土器、土師器、 石質土器、陶器、 磁器	#		

常盤構内

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和38年	工学部校舎新設		1	70		痕跡器	試掘		年報III
	工学部図書館増築		2	70			#		
昭和59年	工学部尾山宿舎 排水管布設			20			立会		年報IV
昭和60年	工学部尾山宿舎 暖壁取設等			65			#		年報V
	工学部受水槽改修		3	1.5			#		
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			#		
	工学部身体障害者用 スローペ段設		4	29			#		年報VI
	後期処理センター (常磐センター) 空調設備取扱		5	30			#		
昭和63年	工学部機能炉上部新設		6	225			#		年報VII
平成元年	工学部夜間照明装置 及び防球ネット設置		7	2			#		年報IX
	工学部記念植樹		8	2.5			#		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			#		年報X
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			#		年報XI
平成4年	工学部プレハブ研究・ 実験棟新設		11	6			試掘		年報XII

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成4年	工学部・工業短期大学部の改組再編・博士課程設置に伴う建物等の新設		12	40			*		年報XII
	工学部および工・短期大学部職員宿舎新設		13	9			立会		
	大学熱展示物設置		14	7			*		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新設		15	12			試掘		年報XIII
	工学部地域共同研究開発センター新設		16	16			*		
平成7年	工学部国際交流会館新設		17	8		石器	*		
平成8年	工学部国際交流会館新設		18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剣片	事前		年報XXI
平成12年	工学部福利厚生棟新設		19	38.5			試掘		年報XX
平成13年	工学部インキュベーションセンター新設		20	60			*		年報XXI
平成14年	総合研究棟新設		21	13.5			*		

白石構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳墓穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報III
昭和60年	教育学部附属山口小学校敷水栓改修		2	1			立会		年報V
	教育学部附属山口中学校運動場改修		3	2			*		
	教育学部附属幼稚園運動場整備(樹木植樹)		4	1			*		
昭和61年	幼稚園・小学校部分	5	57	中世土壤か・	調文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器	試掘			年報VI
	教育学部山口附属学校污水排水管布設	中学校部分	20	河川跡か杭州	陶器器、不明鉄製品、石器、剣片、植物遺体				
	教育学部附属山口小学校電線移設		6				立会		
昭和62年	教育学部附属幼稚園遊戯室改張		7	40			*		年報VII
昭和63年	教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剣片	*		年報VIII
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳墓穴住居、土壙、甌、柱穴、河川跡	調文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵器、黑色土器、種器、二次加工のある剣片、使用痕のある剣片、剣片、石核、瓶石	事前		年報IX
	教育学部附属幼稚園バーベコーグ支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、箭頭、新石器石核	*		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺 墓	遺 物	調査区分	備 考	文献
平成2年	教育学部附属山口中学校汚水排水管敷設		12	70	横状造構	調文土器、陶生土器、土師器、瓦質土器、不明焼製品、石鏡、敲石、扁平打製石斧、砾石、劍片	事前		年報X
			13	130		陶生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、圓座陶磁器、扁平打製石斧、砾石		立会	
平成6年	教育学部附属山口小学校プール新設給水管路設		14	3			#		年報 XIV
			15	7				#	
平成7年	教育学部附属山口中学校自転車置場新設		16				#		
平成10年	教育学部附属山口小学校給食室改修		17				試掘		
平成12年	教育学部附属山口中学校防護ネット新設		18	4.4			立会		年報 XX
平成14年	教育学部附属山口中学校給水設備改修		19				#		
			20		河川、柱穴	土師器		#	

光構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺 墓	遺 物	調査区分	備 考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校自動車置場設置		1	6	近世~近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報 III
昭和59年	教育学部附属光小・中学校施設改修新設		2				立会		年報 IV
昭和60年	教育学部附属光中学校外壁改修		3	1		土師器	#		年報 V
昭和61年	教育学部附属光小学校創立記念事業(ブランズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	#		年報 VI
昭和62年	教育学部附属光中学校グリーンド防草ネット設置		5	2		陶生土器、土師器、瓦質土器、土師質土器、瓦	#	調手洗清採集	年報 VII
昭和63年	教育学部附属光小学校遊具移設		6	10		土師器、土師質土器、陶磁器	#	調手洗清採集	年報 VIII
	教育学部附属光小学校屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、土罐	#		
平成2年	教育学部附属光小学校運動場改修		8	15		調文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、旋物陶器、磁器、土罐、劍片、瓦片	試掘	調手洗清採集 遺物合行	年報 X
	教育学部附属光小学校運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、須恵器和土師器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校武道館新設		10	38	土壤、横状造構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報 XI
	教育学部附属光小学校屋外施設設置		11	18		土師器、石錐	立会		

調査年度	調査名	構内地図	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成3年	教育学部附箕光中学校 バックネット設置		12.	0.5		土師器	*		年報 XI
平成4年	教育学部附箕光中学校 武道館新設		13	500	土壤、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報 XII
	教育学部附箕光中学校 武道館地盤調査		14				立会		
平成5年	教育学部附箕光中学校 武道館新設その他		15	6			*		年報 XIII
平成6年	教育学部附箕光小学校 ゴール新設給排水水管設置		16	19			*		年報 XIV
平成8年	教育学部附箕光小・中学校 圍籠外周フェンス・防球ネット 取扱		17	7		陶磁器	*		年報 XVI
平成10年	教育学部附箕光小学校給食室 改修		18	6			*		
平成11年	教育学部附箕光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世～近代土壤	土師器、須恵器、韓式系 土器、繩形土器、 陶器、磁器	試掘 立会		
平成12年	教育学部附箕光小・中学校 護岸石槽改修		20	173	石垣	土師質土器(磁器)、 磁器、瓦	立会		年報 XX
	教育学部附箕光小・中学校 上水道(給水管)改修		21	23	包含層	土師器、須恵器、磁器 石獅	*		

その他構内

調査年度	調査名	構内地図	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部ボーリング場 合宿研修所整備	平野市大字小野字土井		0.5			立会		年報 IV
	学生部コントロールルーム 合宿研修所整備	吉野郡秋田町東主中道					*		
昭和60年	無野荘給湯機器取扱	山口市無野町3-21		7			*		年報 V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29		35	軒		*		年報 VI
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市湯田温泉6丁目3-32		1		土師質土器	*	6号宿舎	
		山口市水の上町6-1		7		瓦	*	2号宿舎	
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市白石二丁目8-7		1		須恵器、土師器、土師 質土器、瓦質土器、 陶磁器	*	7号宿舎換風	年報 VII
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替	山口市水の上町6-1		1			*	1号宿舎	年報 IX
平成2年	人文・理学院職員宿舎 公共下水道切替	山口市石鏡町1-25		1.2		陶磁器	*	7号宿舎	年報 X
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市香山町3-1		0.5			*	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水 その他改修	山口市湯田温泉6丁目		30			*		年報 XI
	経済学部6号職員宿舎 電柱設置	山口市湯田温泉6丁目3-32		0.5			*		
	人文・理学院職員宿舎 公共下水道切替	山口市天花932-2		1			*		

調査 年度	調　査　名	構内地区割　地点	面積 (m ²)	道　構	道　物	調査 区分	備　考	文献
平成 4年	上堅小路共同下水管布設	山口市上堅小路宇久保 7-4	7			立会		年報 XII
平成 6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29	44			#		年報 XIV

※文献① 山口大学吉田遺跡調査『吉田遺跡発掘調査報告』(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田塙内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査との関与した調査については。

調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

※平成12年度調査[6]の一部を修正した。

Summary

Ch. I : A summary of archaeological excavations on the campus of Yamaguchi University in the 2000 fiscal year

A salvage excavation was carried out on the Yoshida campus. Test excavations were carried out once each on the Yoshida, and the Tokiwa campuses. On-site inspections were carried out nine times on the Yoshida campus, once on the Shiraishi campus, and twice on the Hikari campus.

Ch. II : Excavations prior to the construction of the Research and Education Building on the Yoshida campus

It was revealed that the investigation area was located in a buried valley. Particularly noticeable was the fact that a lot of broken pieces of pottery which belong to the Nara Age were excavated in the valley. In addition, the remains including inkslabs with a flat grinding surface and a Sue ware shard with carbon ink imply the existence of a local government office. During the on-site inspection, layers in the buried valley were excavated at the spots A and B.

Ch. III : Test excavations in the 2000 fiscal year

In the test excavation for the construction of the Welfare Facility on the Tokiwa campus, no archaeological remains were found.

Ch. IV : On-site inspections in the 2000 fiscal year

During the construction to bury aerial cables on the Yoshida campus, layers containing cultural remains were found to the west of the Veterinary Hospital. These layers are regarded as an extension of the valley excavated in the Research and Education Building.

We investigated three spots for constructing outdoor lamps on the Yoshida campus. At the spot B, layers containing cultural remains were discovered.

During the reconstruction of the breakwater stone walls on the Hikari campus, at the spots B and C, stone walls using round stones were discovered inside of the existing stone walls. The date of this stone walls was unclear, but broken pieces of roof tiles and porcelain which belong to the early modern period to the modern period were

found inside these stone walls.

During Water-supply pipe laying work on the Hikari campus, at the spot A-1, the layer 103-165cm below the ground surface contained a small number of Haji ware, Sue ware, a celadon bowl of Yue ware, and a stone weight.

No archaeological remains were found from any other areas.

Appendix

I This is a summary report of newly discovered drawings from the excavation carried out in 1966 at Area I B of the Yoshida site. As a result of examination of the drawings, Area I B could have been located at the edge of the hill. In the report of last year, we assumed that Area I A was located on the shoulder part of a river. However, compared with the record of Area I B, Area I A also should have been located at the edge of the hill. A lot of pillar holes were excavated at Area I B. According to the artifacts reported in the 1993 fiscal year, these pits are likely to belong to the period between the Yayoi and the Middle Kofun periods.



Fig.41 山口大学吉田横内地区割及び主な調査区位置図(昭和41年度～平成14年度)



Fig.42 山口大学小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）



Fig.43 山口大学常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

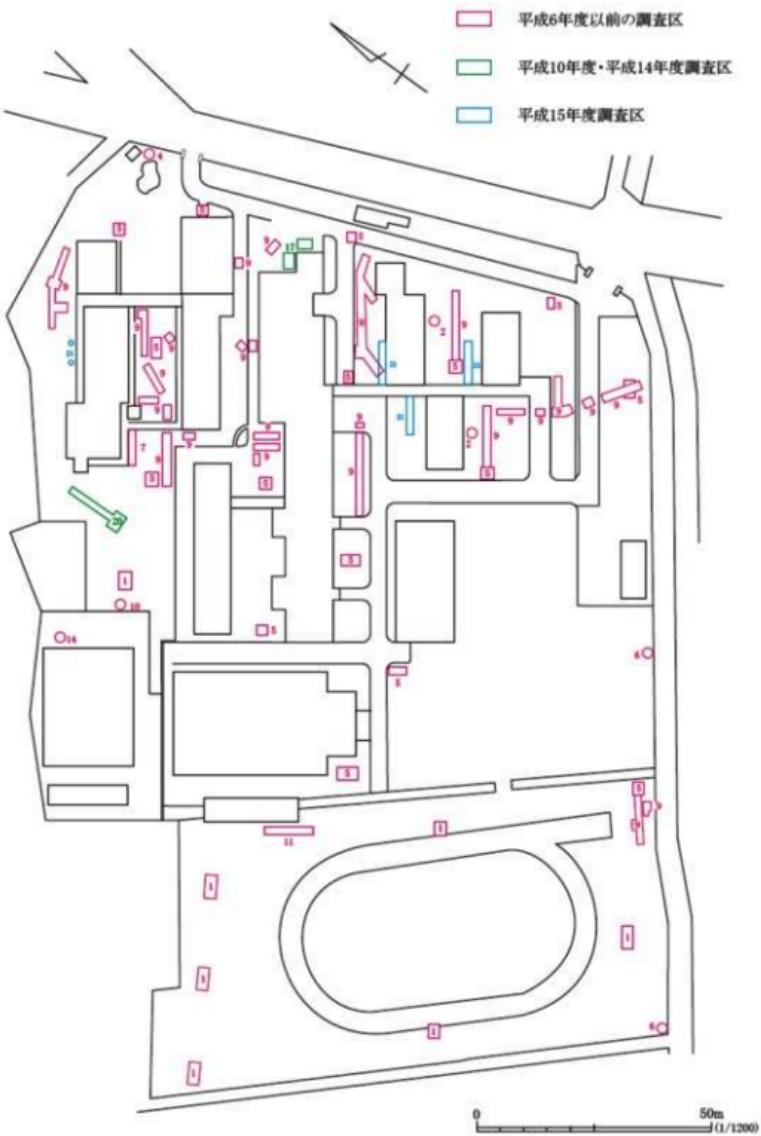


Fig44 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和58年度～平成14年度）

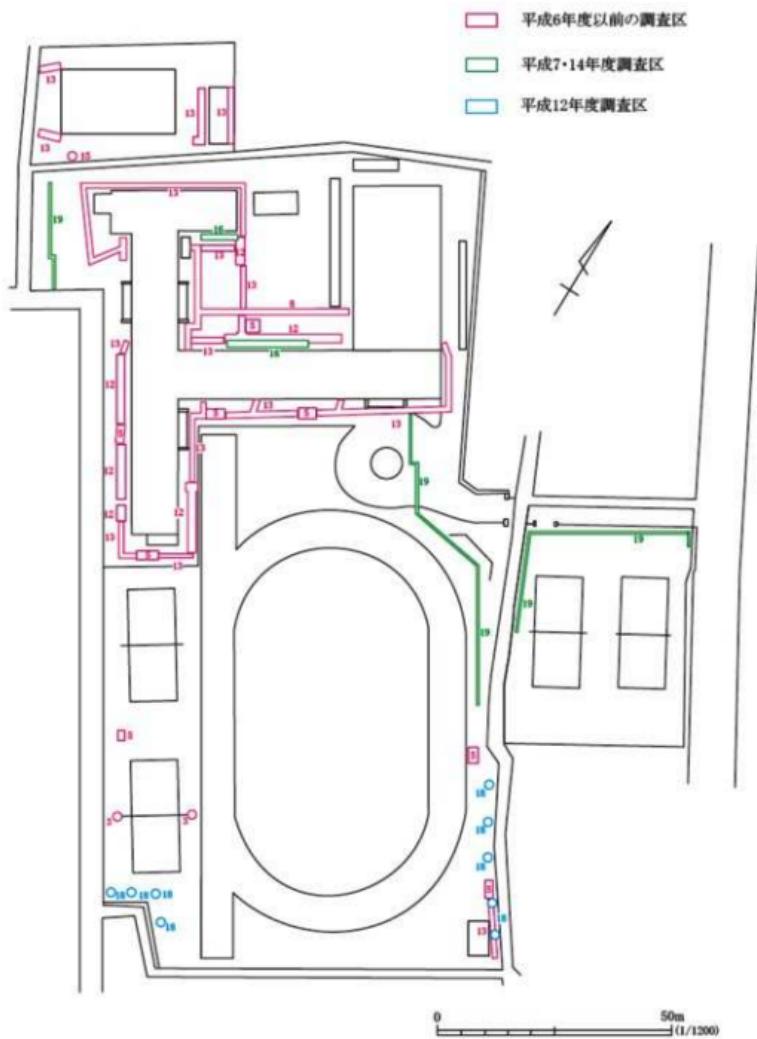


Fig.45 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）

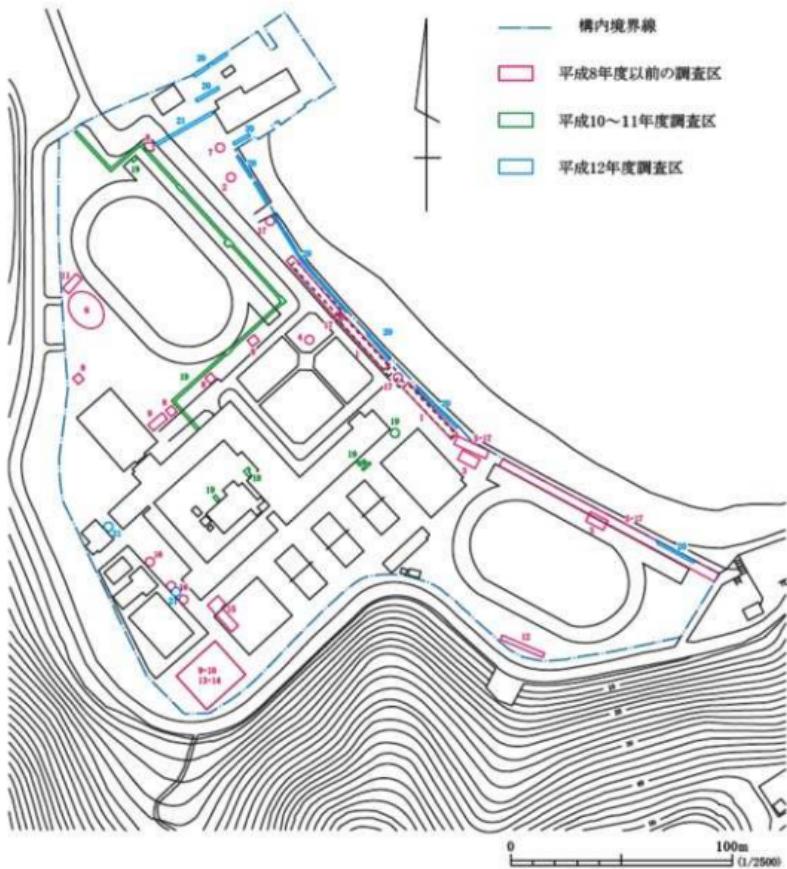


Fig.46 山口大学光構内調査区位置図(昭和 58 年度～平成 12 年度)

図 版



松山市北地区
(昭和10年)



(1) 調査前全景（東部 北から）



(2) 調査前全景（西部 北から）



(1) Aトレンチ全景（南から）



(2) Cトレンチ東部北壁土層断面（南西から）



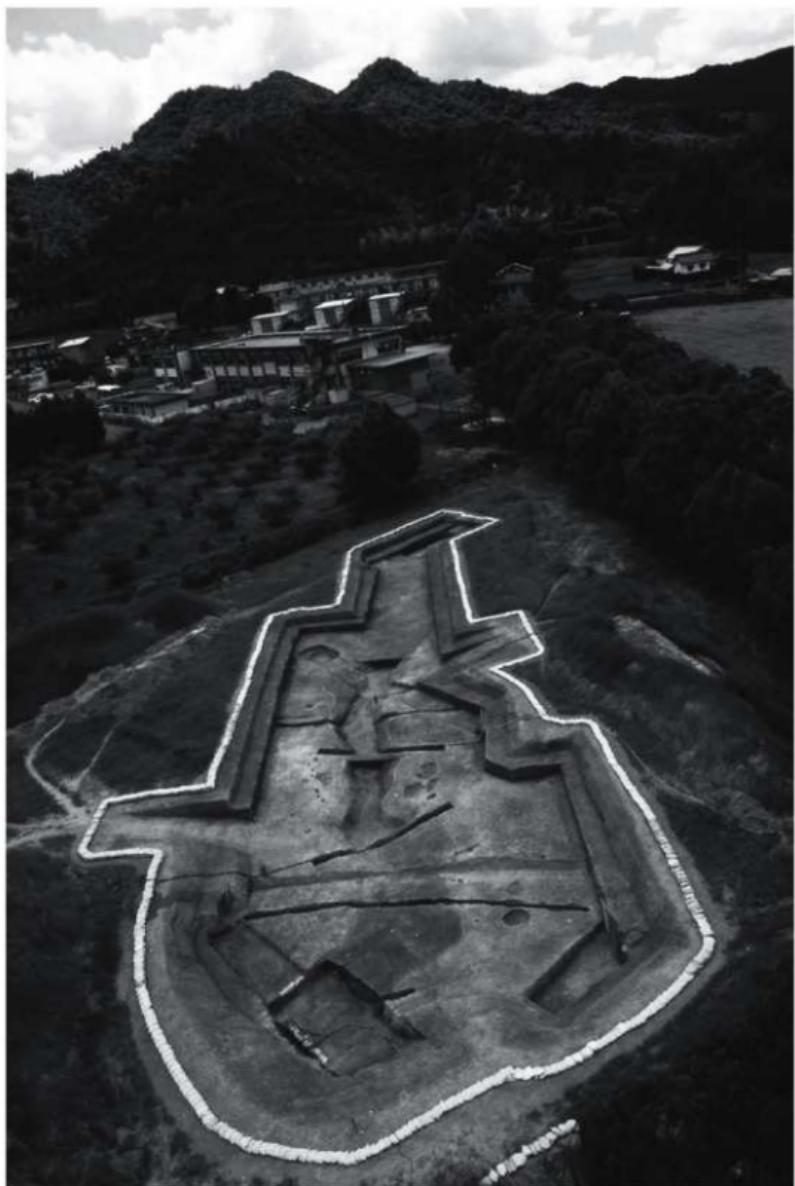
(1) A トレンチa-b間土層断面（南西から）

(2) A トレンチc-d間土層断面（南西から）



(3) B トレンチe-f間土層断面（南西から）

(4) C トレンチg-h間土層断面（南東から）



事前調査区全景（北西から）



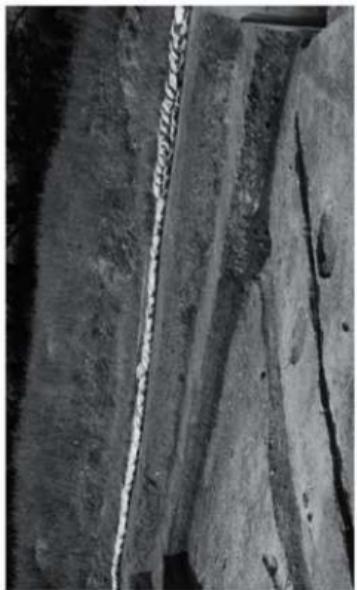
事前調査区全景（俯瞰）



(1) 調査区北西部 A-B 闊土層断面（北東から）



(2) 調査区北部 C-D 闊土層断面（南から）



(3) 調査区北東部 E-F 闊土層断面（西から）



(4) 調査区南東部 F-G 闊土層断面（北西から）



(1) 調査区南東部 G-H 間土層断面 (西から)



(2) 調査区南東部 I-J 間土層断面 (南から)



(3) 調査区北西部遺構検出状況①(南から)

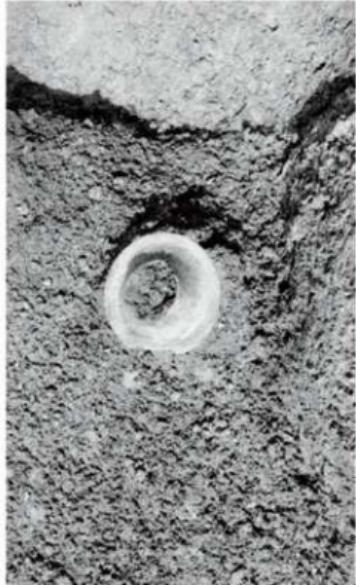


(4) 調査区北西部遺構検出状況②(西から)





(1) 境没谷円面穂出土状況（南から）



(2) 境没谷筋生土器出土状況（北東から）



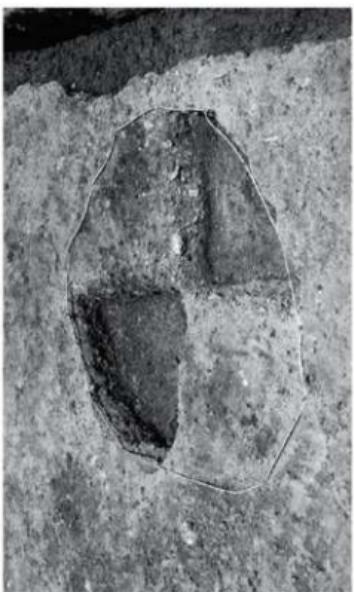
(3) 第1号土壤・2号土壤、杭列半截状況（南西から）



(4) 第3号土壤半截状況（北東から）



(2) 第7号土壌半載状況(南西から)



(4) 第9号土壌半載状況(南西から)



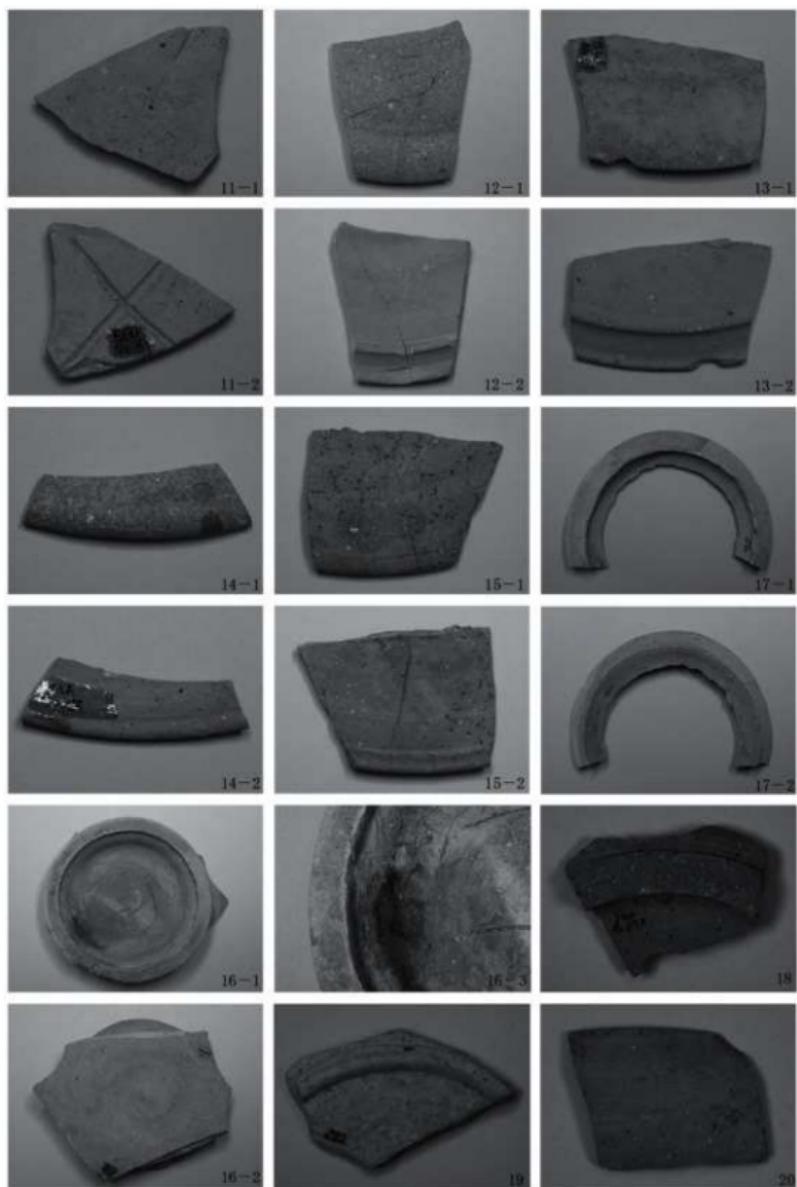
(1) 第4～6号土壌半載状況(南西から)



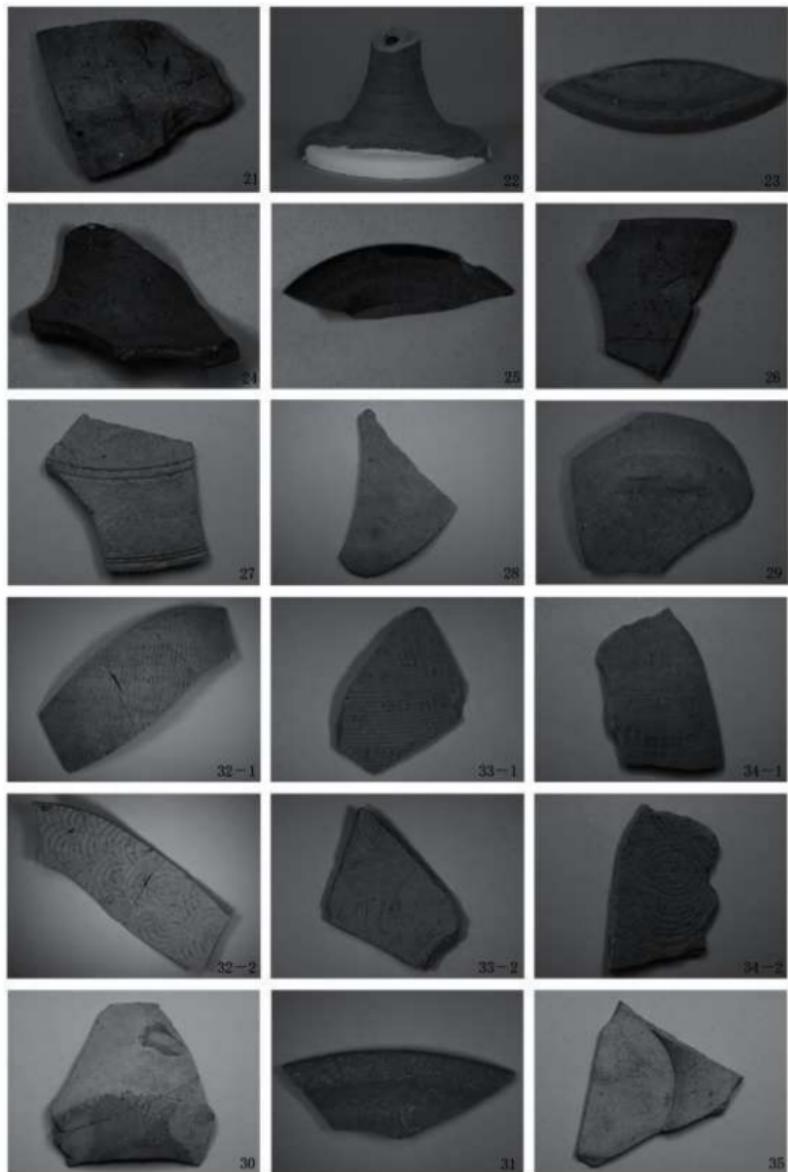
(3) 第8号土壌半載状況(南西から)



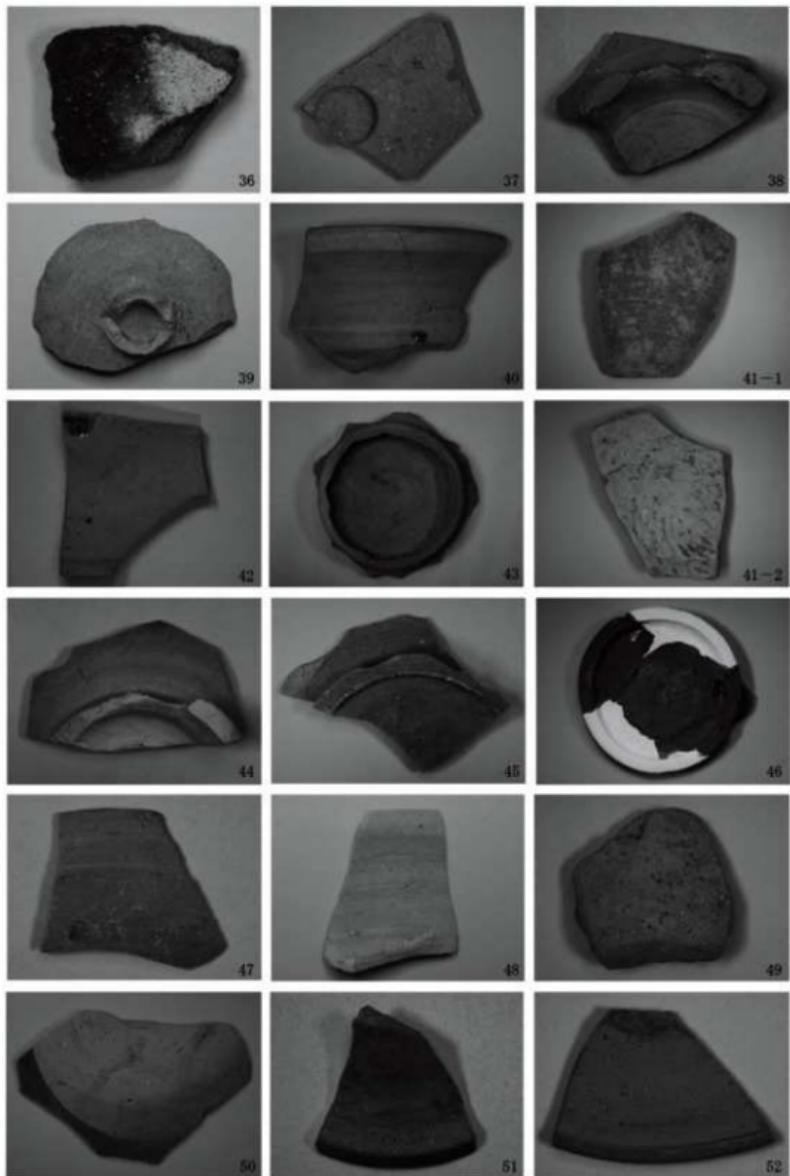
出土遺物（土器）①



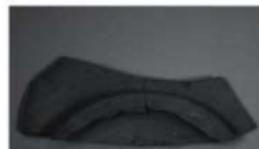
出土遺物（土器）②



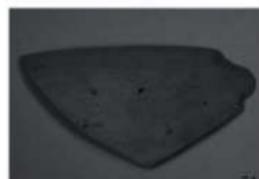
出土遺物（土器）③



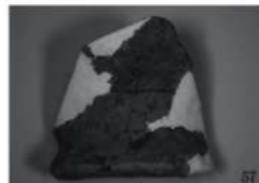
出土遺物（土器）④



53



54



55



56



57



58

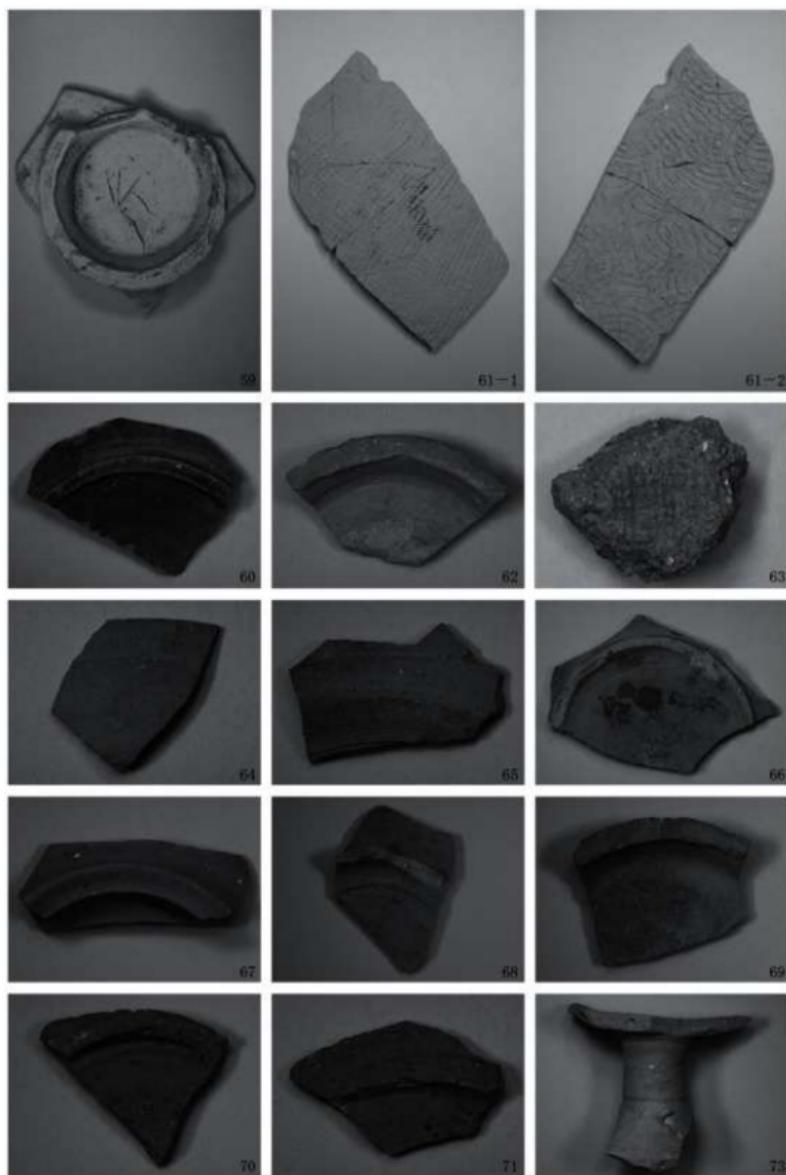


59

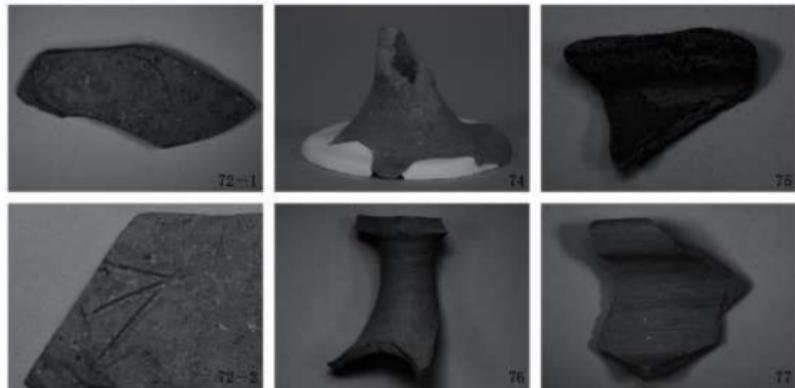


60

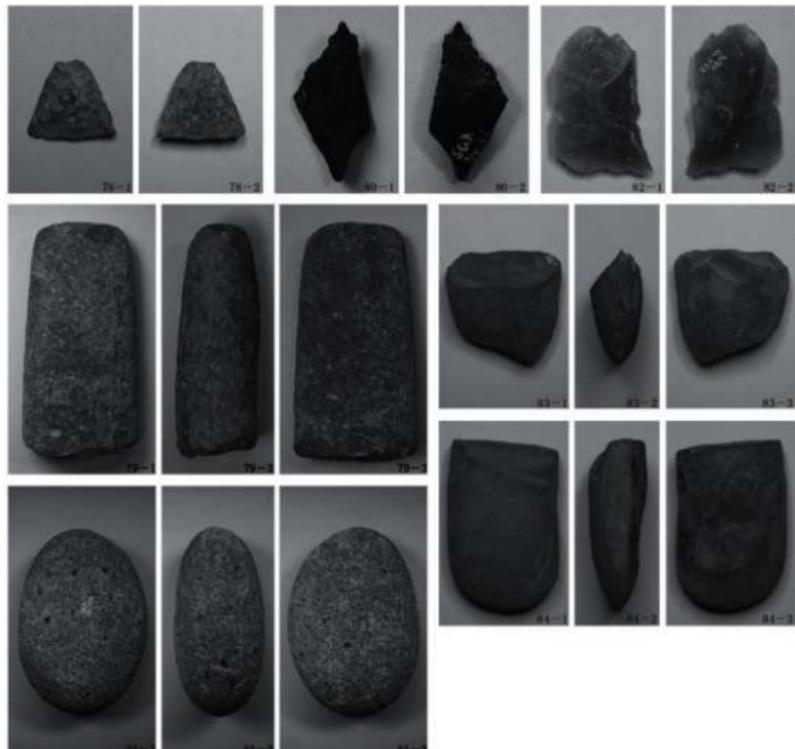
出土遺物（土器）⑤



出土遺物（土器）⑥



(1) 出土遺物 (土器)⑦



(2) 出土遺物 (石器)



新嘉坡区创略（图名）

常盤構内福利厚生棟新営に伴う試掘調査



(1) Aトレンチ完掘状況（北西から）



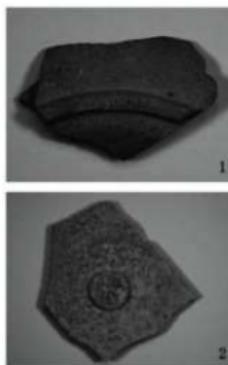
(2) Bトレンチ完掘状況（南西から）



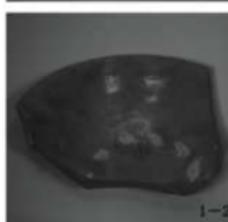
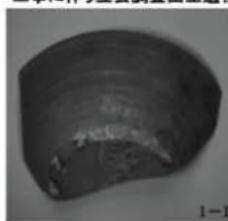
(3) Cトレンチ完掘状況（北から）



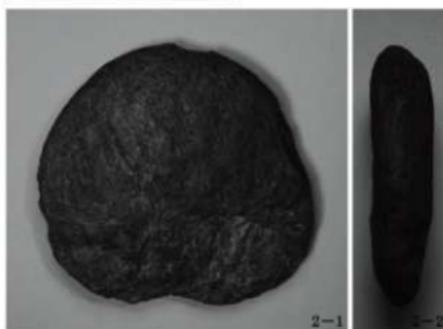
(4) Dトレンチ完掘状況（北西から）



(1) 架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査出土遺物



(2) 教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査出土遺物



(3) 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修2期工事に伴う立会調査出土遺物

付篇
吉田遺跡第Ⅰ地区B区の未報告図面



(1) 第Ⅰ地区 B 区全景①(南西から)



(2) 第Ⅰ地区 B 区全景②(南西から)



(3) 第Ⅰ地区 B 区土壁断面(南から)



(4) 第Ⅰ地区 B 区調査風景(東から)

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくこうないいせきちょうさけんきゅうねんぼう
書名	山口大学構内遺跡調査研究年報
副書名	
巻次	XX
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	田畠直彦
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市大字吉田1677-1 TEL 083-933-5035
発行年月日	西暦2017年（平成29年）3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡 Q・R-18区	山口県山口市 大字吉田1677-1	35203		34度 08分 48秒	131度 28分 16秒	20010523～ 20010731	807m ²	総合研究棟新営
吉田遺跡 Q-18、 R-17～19区	山口県山口市 大字吉田1677-1	35203		33度 57分 39秒	131度 15分 02秒	20010417～ 20010519	270m ²	総合研究棟新営
山口大学工学部 構内遺跡	山口県宇部市 常盤台2丁目16-1	35202		33度 57分 36秒	131度 16分 08秒	20010226～ 20010308	38.5m ²	福利厚生棟新営

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡 Q・R-18区	集落跡	縄文～中世	埋没谷 土壤12	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 瓦質土器、陶器、磁器、 石斧、石鏃、銅片	
吉田遺跡 Q-18、 R-17～19区	散布地	縄文～中世	埋没谷	土師器、須恵器、 瓦質土器、陶器、磁器	
山口大学工学部 構内遺跡	散布地				

山口大学構内遺跡調査研究年報 XX

平成29年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 有限会社 三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8

ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES AND STUDIES
AT YAMAGUCHI UNIVERSITY Vol.XX

CONTENTS

Chapter

I	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2000 fiscal year	1
II	Excavations prior to the construction of the Research and Education Building on the Yoshida campus	5
III	Test excavations in relation to the construction performed on the Yamaguchi University campus in the 2000 fiscal year	33
IV	On-site inspection performed on the Yamaguchi University campus in the 2000 fiscal year	35

Appendix

Newly discovered drawings of the excavation in Area I B at Yoshida Site	48
The gist of researches and studies at Yamaguchi University	53
List of excavations at Yamaguchi University	56
Summary	71

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2017